

三重県議会政策討論会議

2023/9/29

子どもの貧困の現状と課題
／新型コロナウイルス感染症
拡大による子どもへの影響

東京都立大学 人文社会学部 &
子ども・若者貧困研究センター
阿部 彩

対象者のイメージ

児童養護施設在籍児童 約3万人

生活保護受給世帯の育つ子ども数(20歳未満) 約30万人

相対的貧困の子ども 約300万人

困窮層

従来福祉が対象としてきた層(生活保護、要対協、児相の対象者など)

特に大きな問題
になっていないが
生活に困難を抱
える層

困難層

一般層



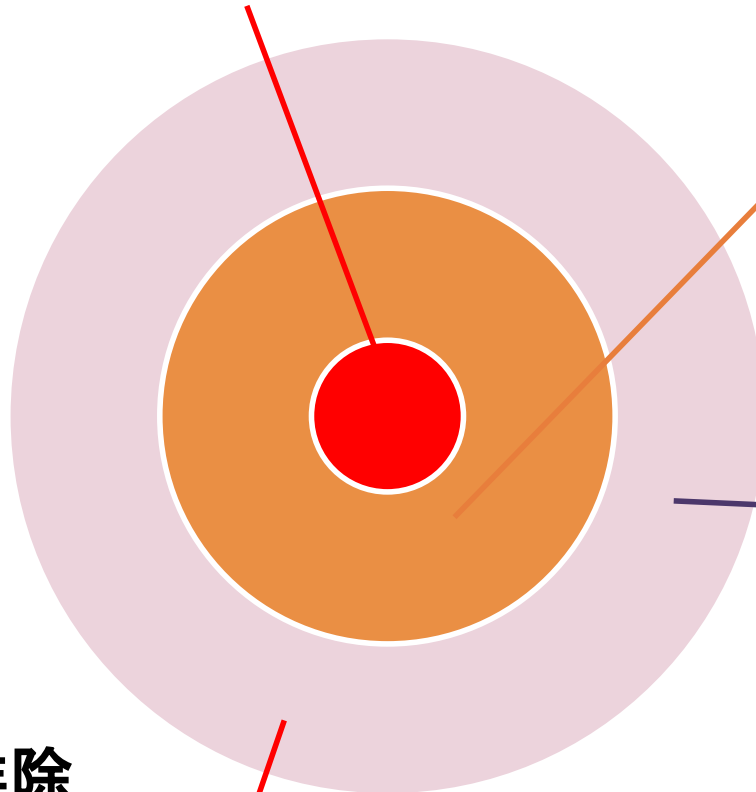
貧困から社会的排除へ

経済的困難・金銭の不足

物的資源の欠如
食生活・健康への影響
学力の低下
体力の低下
住環境の劣化
家庭内のストレス など

自己肯定感の低下
人間関係の劣化
社会システムからの脱落
精神的ダメージ

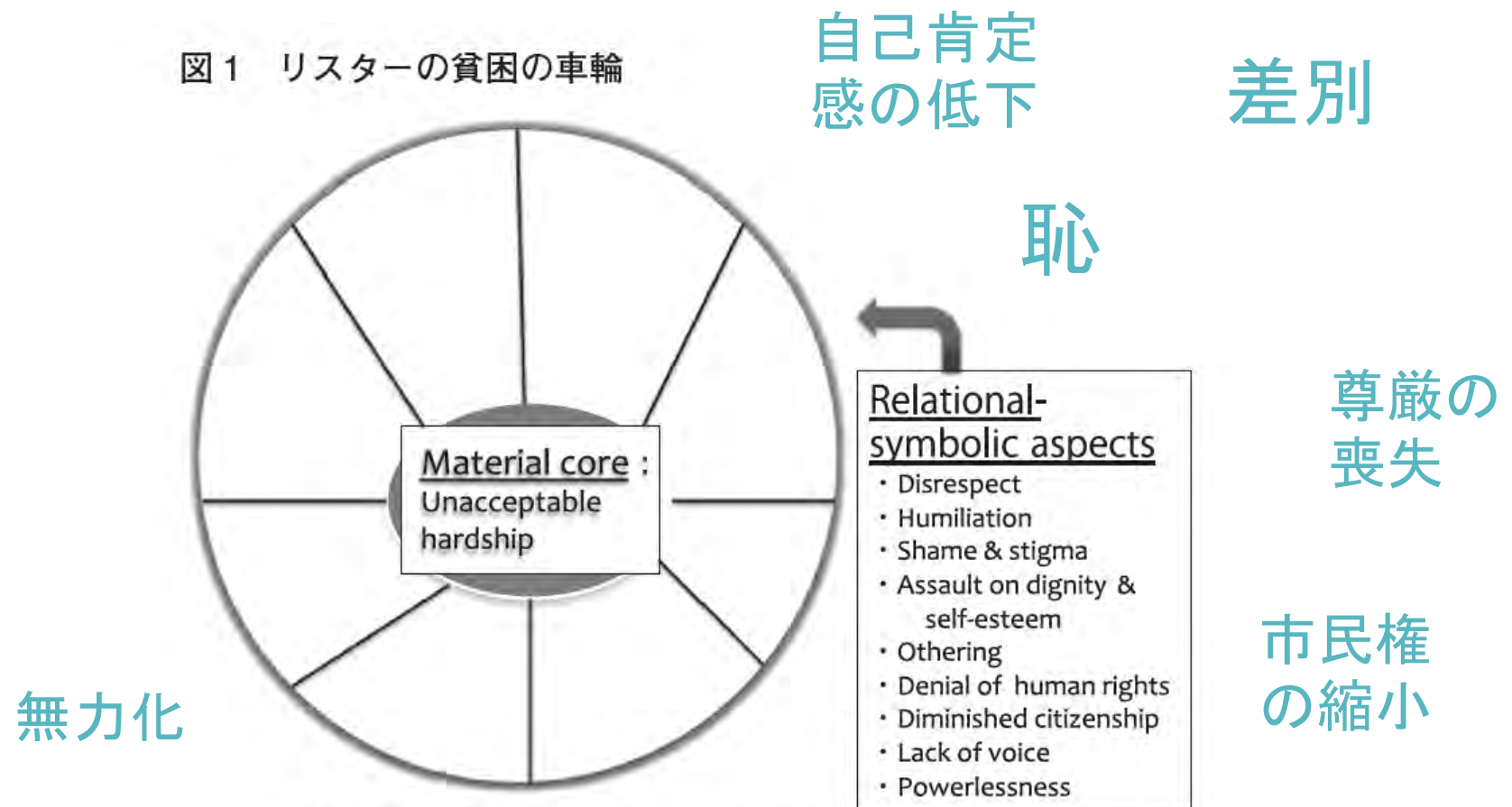
社会的排除
(Social Exclusion)



リストターの「貧困の車輪」



図1 リスターの貧困の車輪



* Material and non-material wheel of poverty: Lister, R. 2004:8

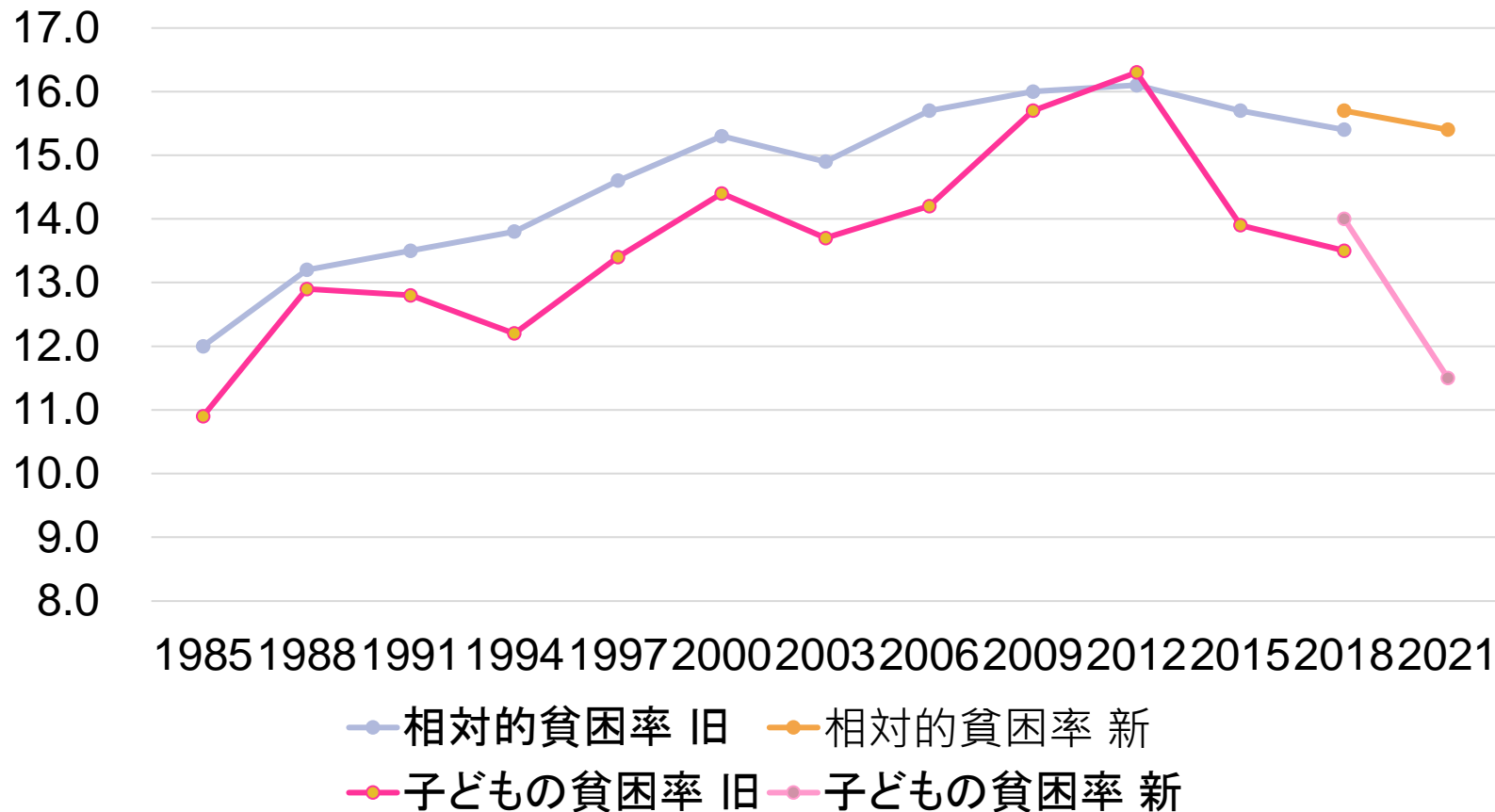
「貧困」は・・・

その人の「属性」として考えるのではなく、「社会」がどのようにその人を扱っているのかを見るべき。



相対的貧困率の推移：1985-2021

厚生労働省「国民生活基礎調査」による貧困率

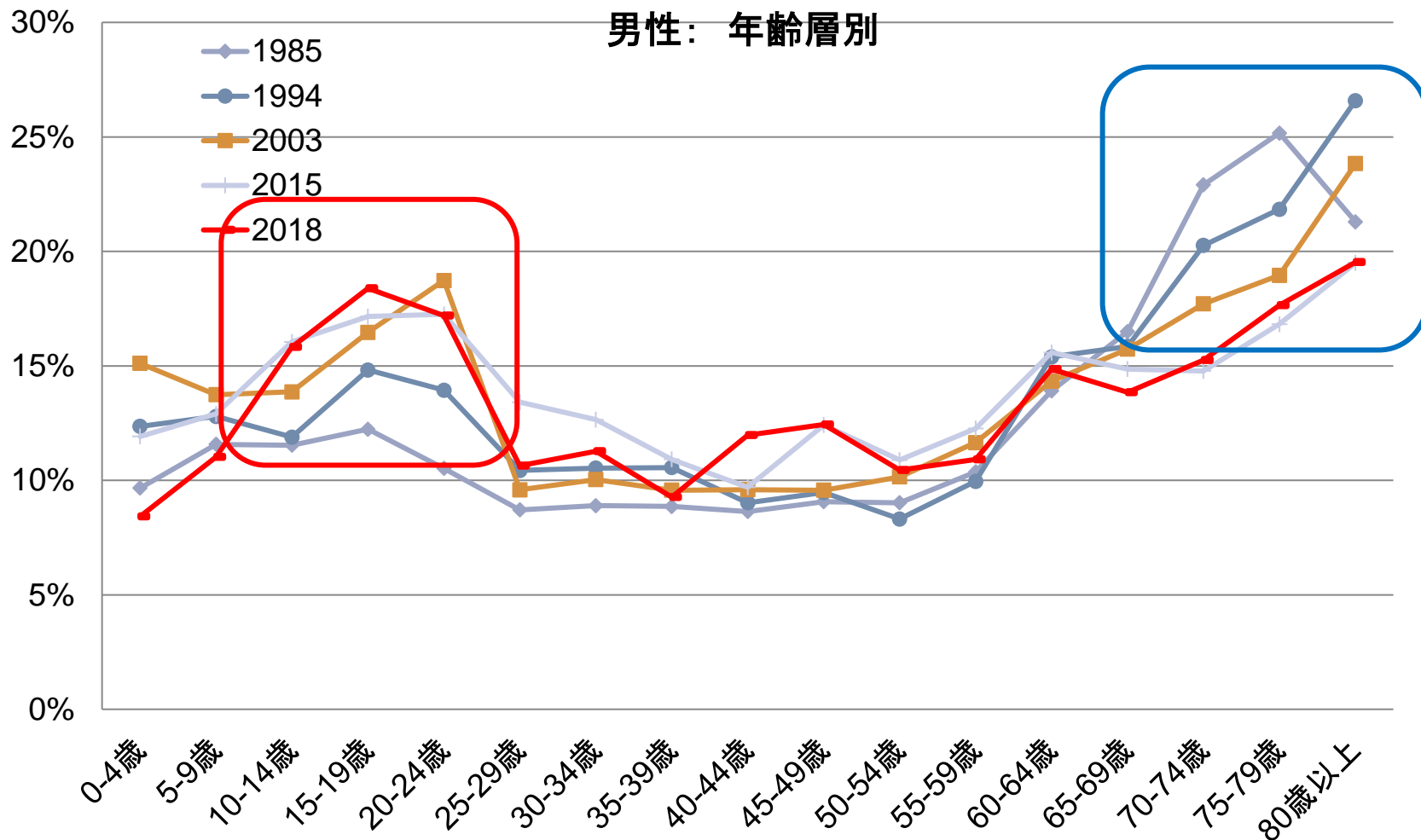


- 子どもの定義は18歳未満

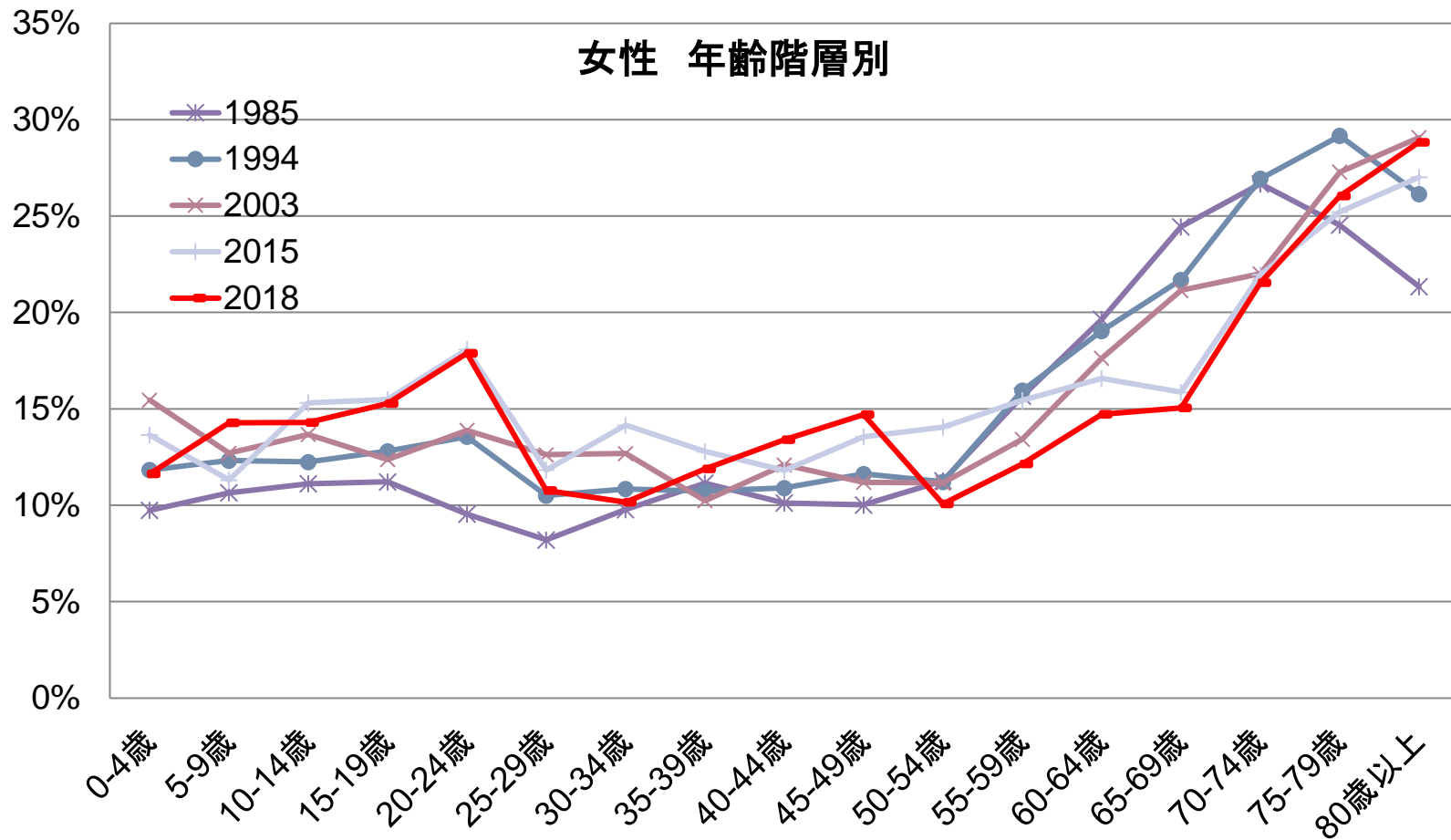
出所：厚生労働省(2023)『2022年国民生活基礎調査 結果の概況』

- 2015年から2018年は好景気であったのにも関わらず、貧困率の減少は僅か。

男性の年齢階層別の貧困率の推移： 1985から2018



女性の年齢階層別の貧困率の推移： 1985年から2018年の動き



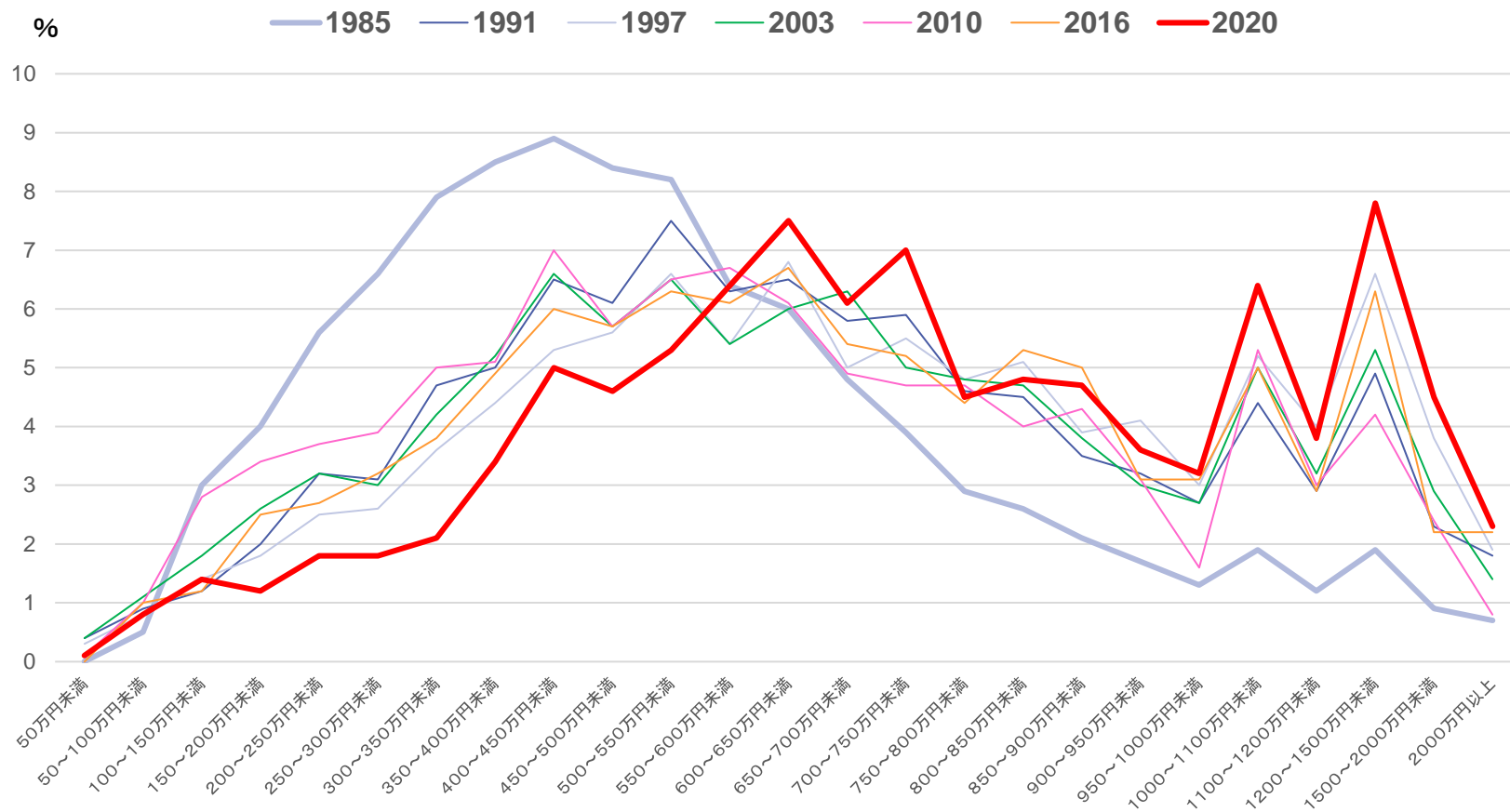
- 女性については高齢期の改善がさほど見られない。



子ども間の格差の拡大



児童のある世帯の所得分布：1985～2020

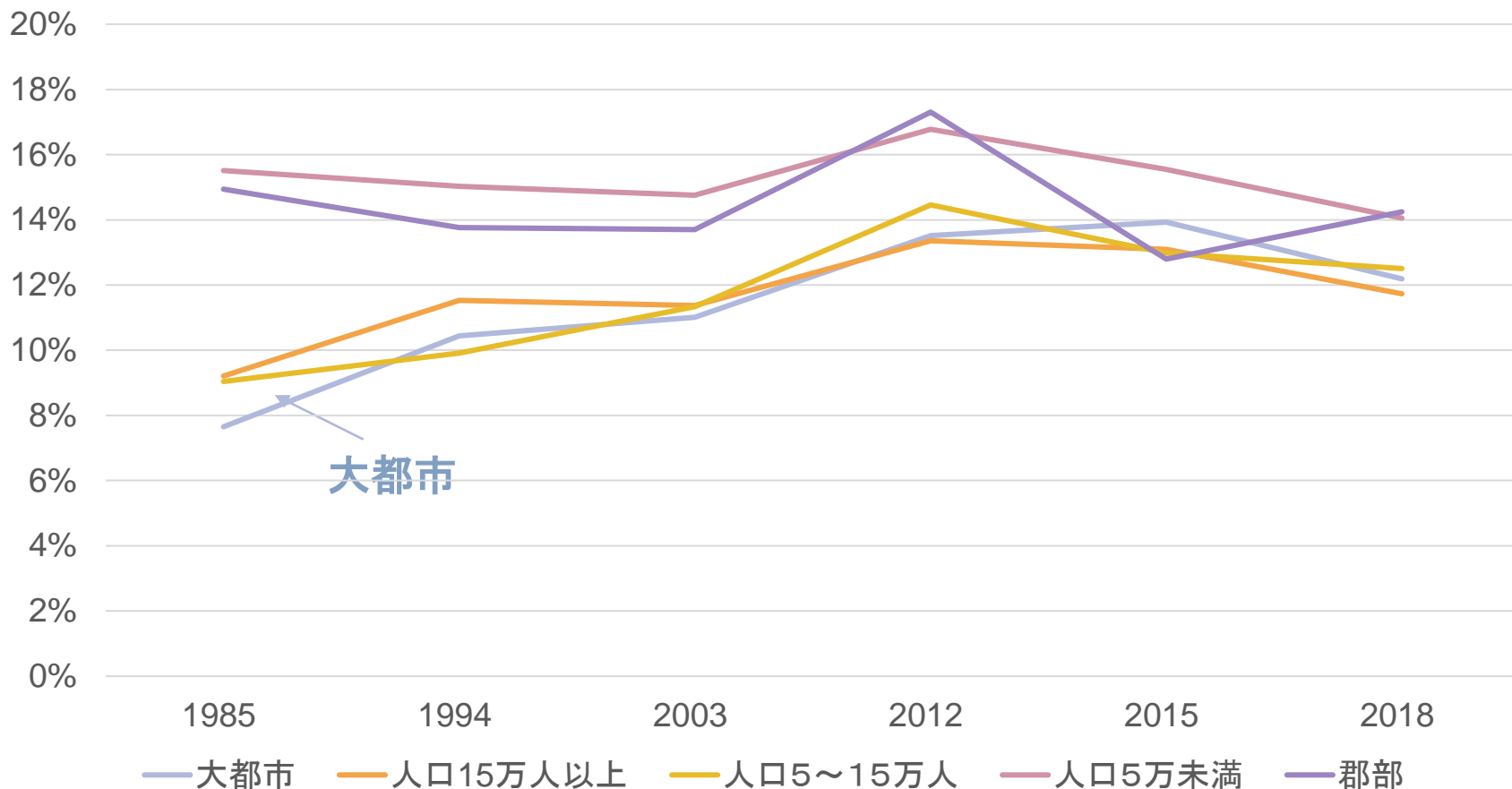


- 「中間層」が大多数だった時代からの変容。高所得層の増加も

貧困率の収斂：都市規模別の貧困率

1985-2018

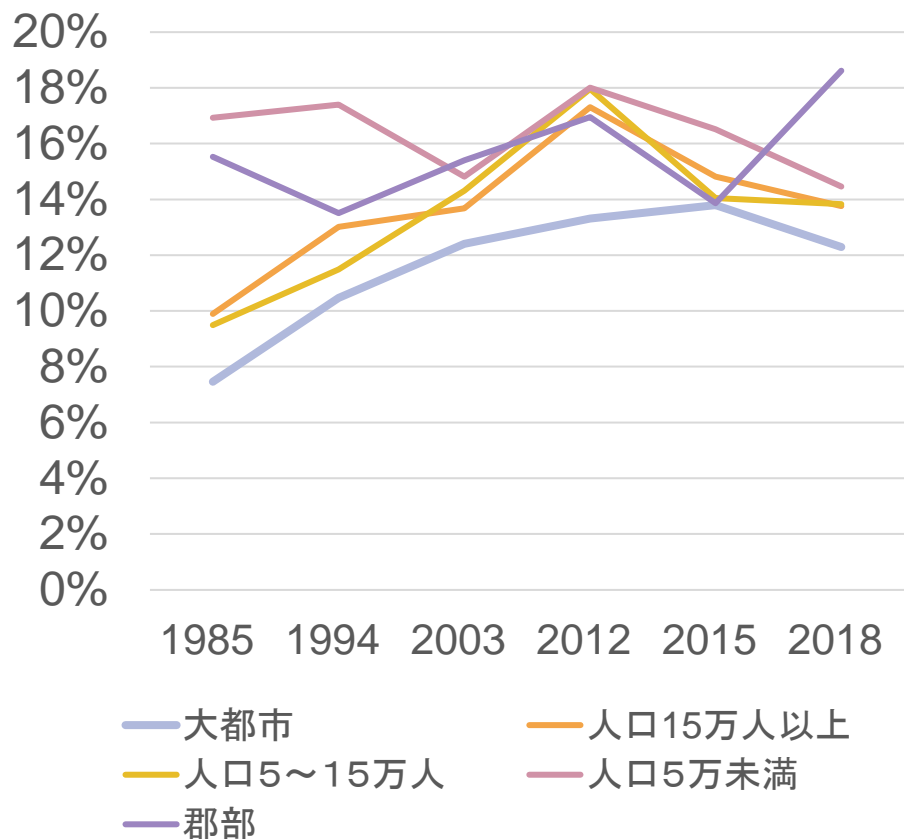
勤労世代（20歳から64歳）



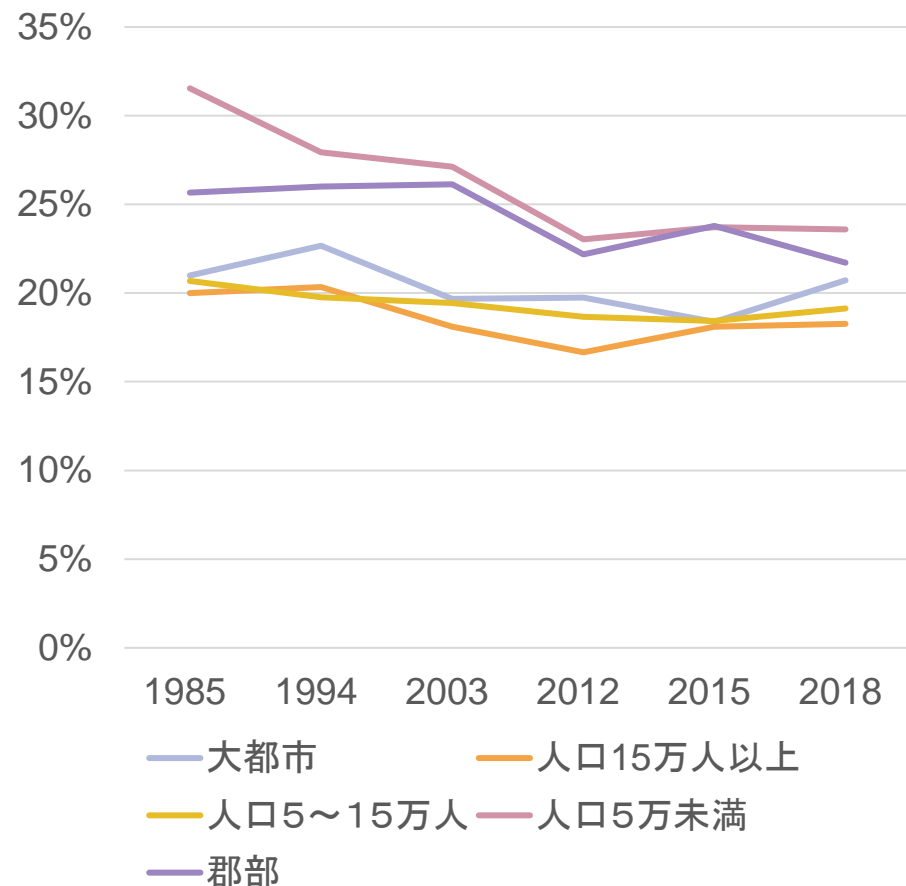
- 1980年代、1990年代においては、都市規模別の貧困率に大きな差があった。しかし、格差は徐々に縮小し、2018年においては、貧困率の都市規模別の差は2ポイントに留まっている。

他の年齢層においても・・・

子ども (< 20)



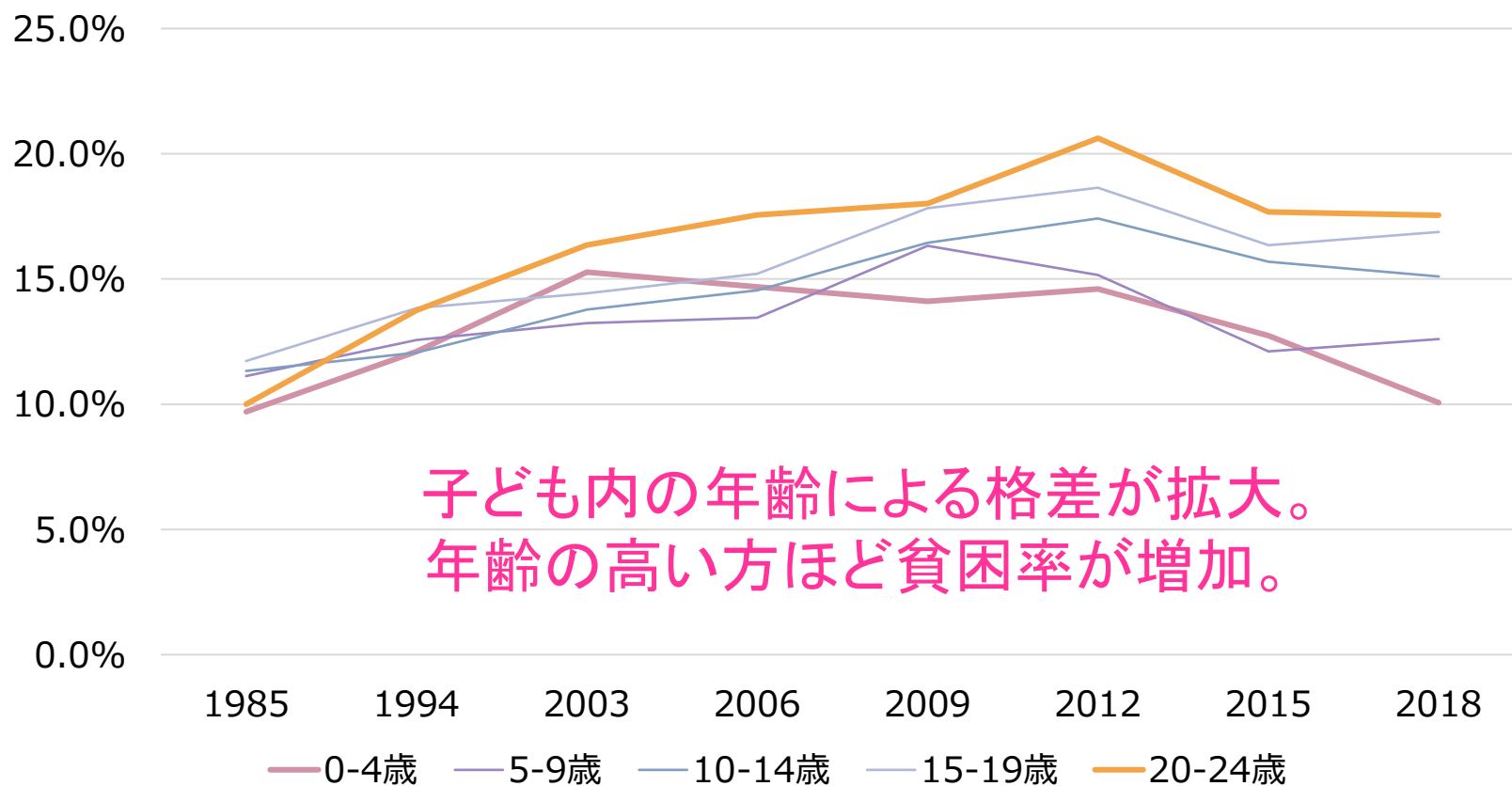
高齢者 (> 65)



貧困率の収斂は、子ども(20歳未満)、高齢者(65歳以上)にも見られる。高齢者については、全体的に減少の傾向にあるが、収斂の傾向は同じ。

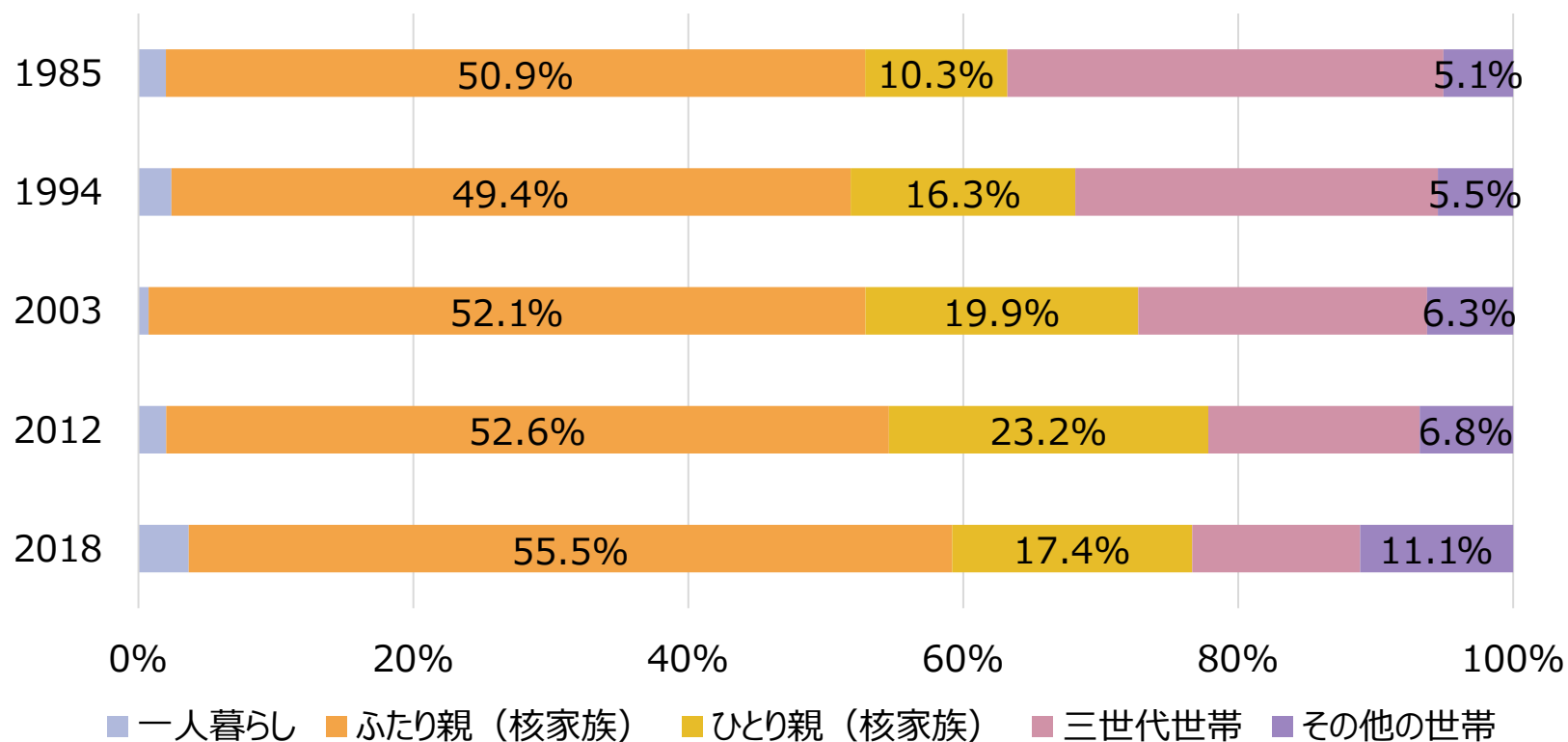
0～24歳の貧困率：1985～2018

年齢別子どもの貧困率：1985-2018



貧困の子どもの過半数は「ふたり親世帯」

貧困の子どもの世帯タイプ

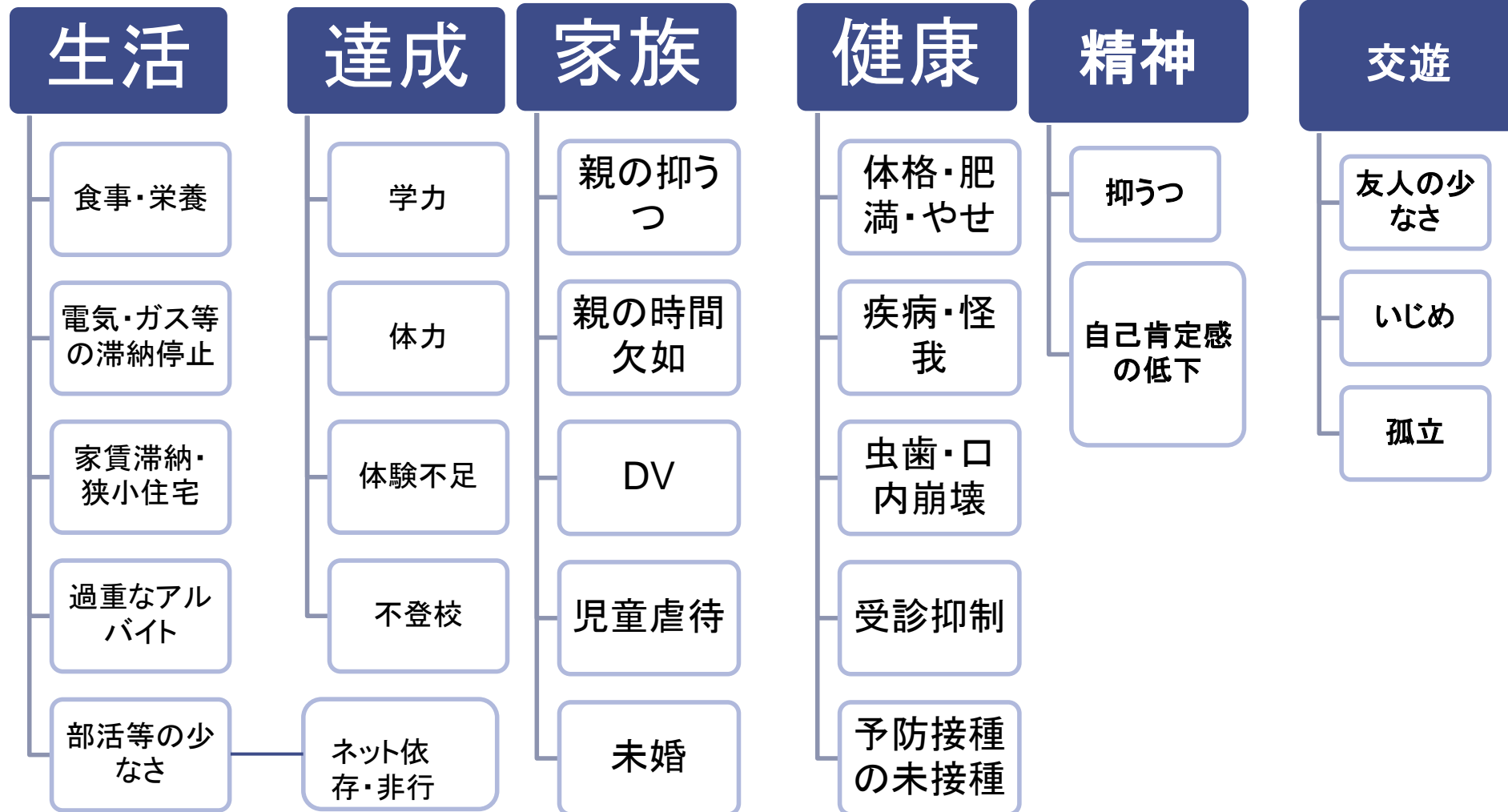




子どもの貧困とアウトカム



(日本のデータにおいて)
相対的貧困と関連が立証されているもの (一部)



生活困難度の定義

低収入

等価世帯所得（（収入＋社会保障給付金）÷√世帯人数）が厚生労働省「平成27年国民生活基礎調査」から算出される基準未滿。

低所得基準：

$$\begin{aligned} & \text{所得中央値：427万円} \div \\ & \sqrt{\text{平均世帯人数}} \times 50\% \\ & = 135.3\text{万円} \end{aligned}$$

「国民生活基礎調査」の所得には、稼働所得、公的年金・恩給、財産所得、社会保障給付金、仕送り・企業年金・個人年金・その他の所得が含まれる。税金・社会保険料などを含む。

子供の所有物・体験の欠如

以下の15項目のうち、経済的な理由で剥奪されている項目が**3つ以上**。

1. 海水浴に行く
2. 博物館・科学館・美術館などに行く
3. キャンプやバーベキューに行く
4. スポーツ観戦や劇場に行く
5. 遊園地やテーマパークに行く（*）
6. 毎月おこづかいを渡す
7. 毎年新しい洋服・靴を買う
8. 習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わず
9. 学習塾に通わせる
10. お誕生日のお祝いをする
11. 1年に1回程度家族旅行に行く
12. クリスマスのプレゼントや正月のお年玉
13. 子どもの年齢に合った本
14. 子ども用のスポーツ用品
15. 子どもが自宅で宿題をすることができる場所

家計の逼迫

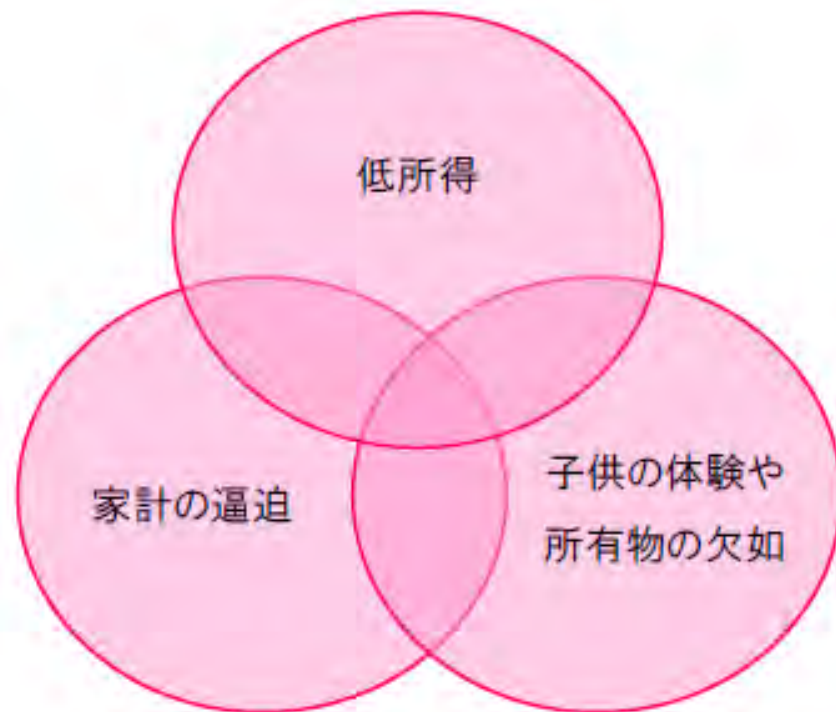
以下の7項目のうち、経済的な理由で剥奪されている項目が**1つ以上**。

1. 電話
2. 電気
3. ガス
4. 水道
5. 家賃
6. 家族が必要な食料が買えなかった
7. 家族が必要な衣服が買えなかった

(*)16-17歳は、親と一緒に遊園地やテーマパークに行くことが少ないと考えられるため、「友人と遊びに行くお金」を代替。

◆生活困難層(困窮層・周辺層)、一般層

生活困難層	困窮層+周辺層
困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
一般層	いずれの要素にも該当しない

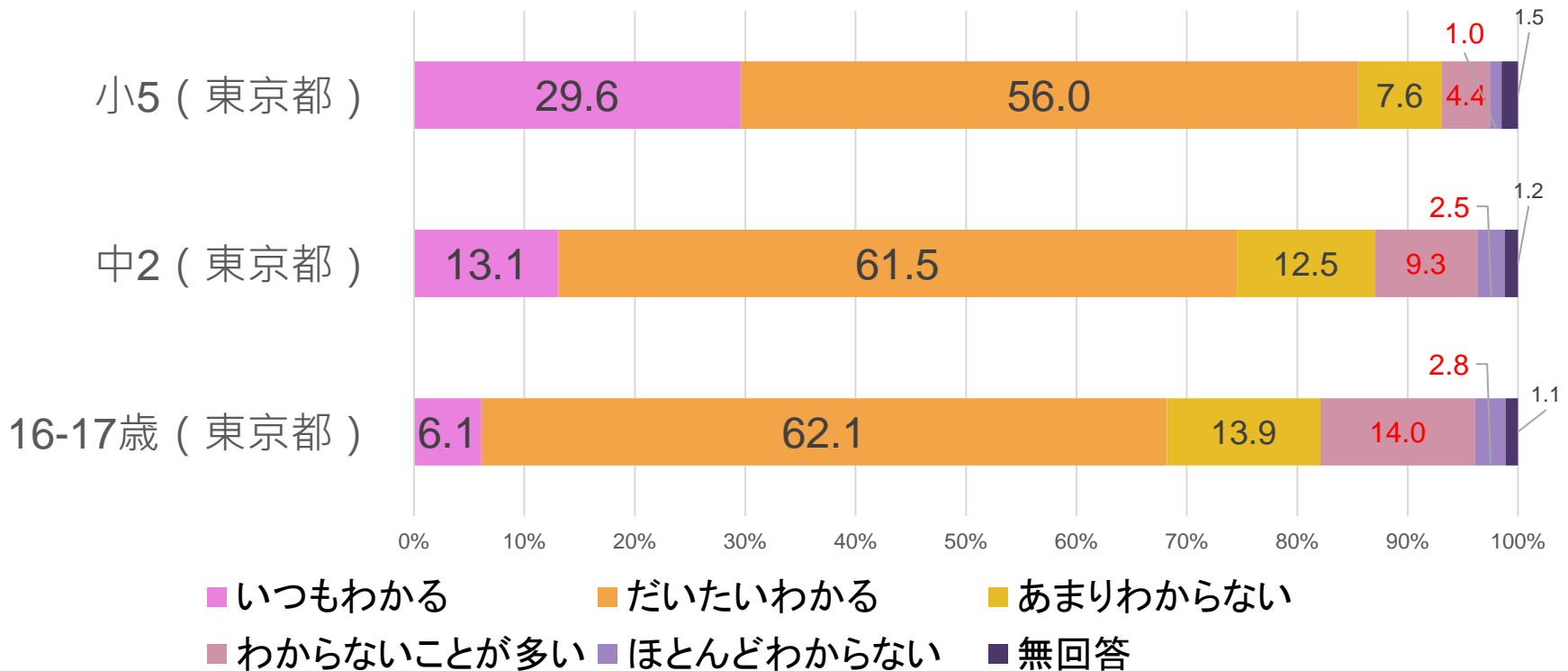


生活困難層の割合 (東京都2016年調査)

		小学5年生	中学2年生	16-17歳
生活困難層		20.5%	21.6%	24.0%
	困窮層	5.7%	7.1%	6.9%
	周辺層	14.9%	14.5%	17.1%
一般層		79.5%	78.4%	76.0%

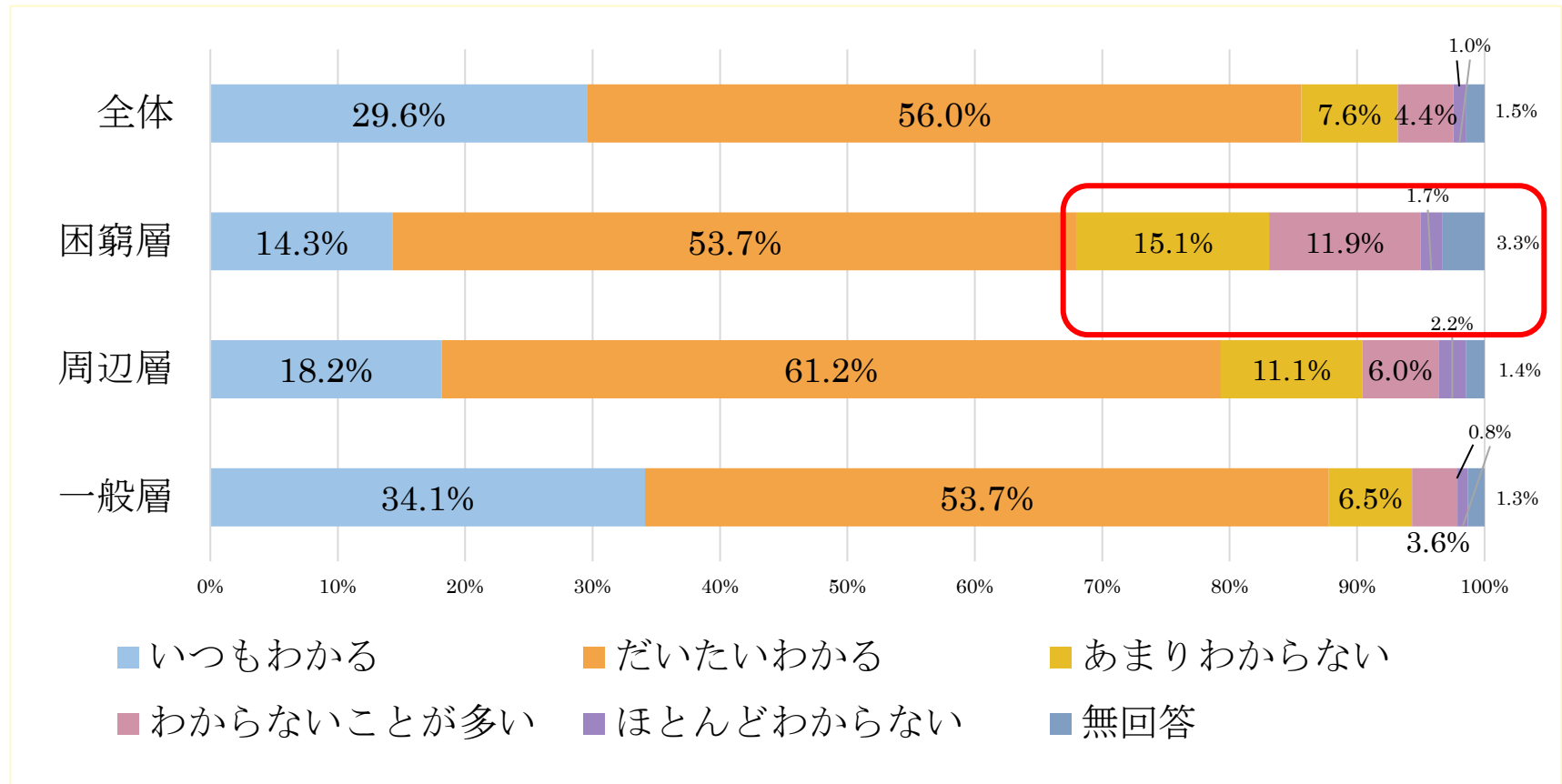
授業の理解度（東京都4自治体）

「あなたは学校の授業がわかりますか」



- 小学5年生の13%、中学2年生の24%、16-17歳の30%の子どもが授業を「あまりわからない」「わからないことが多い」「殆どわからない」

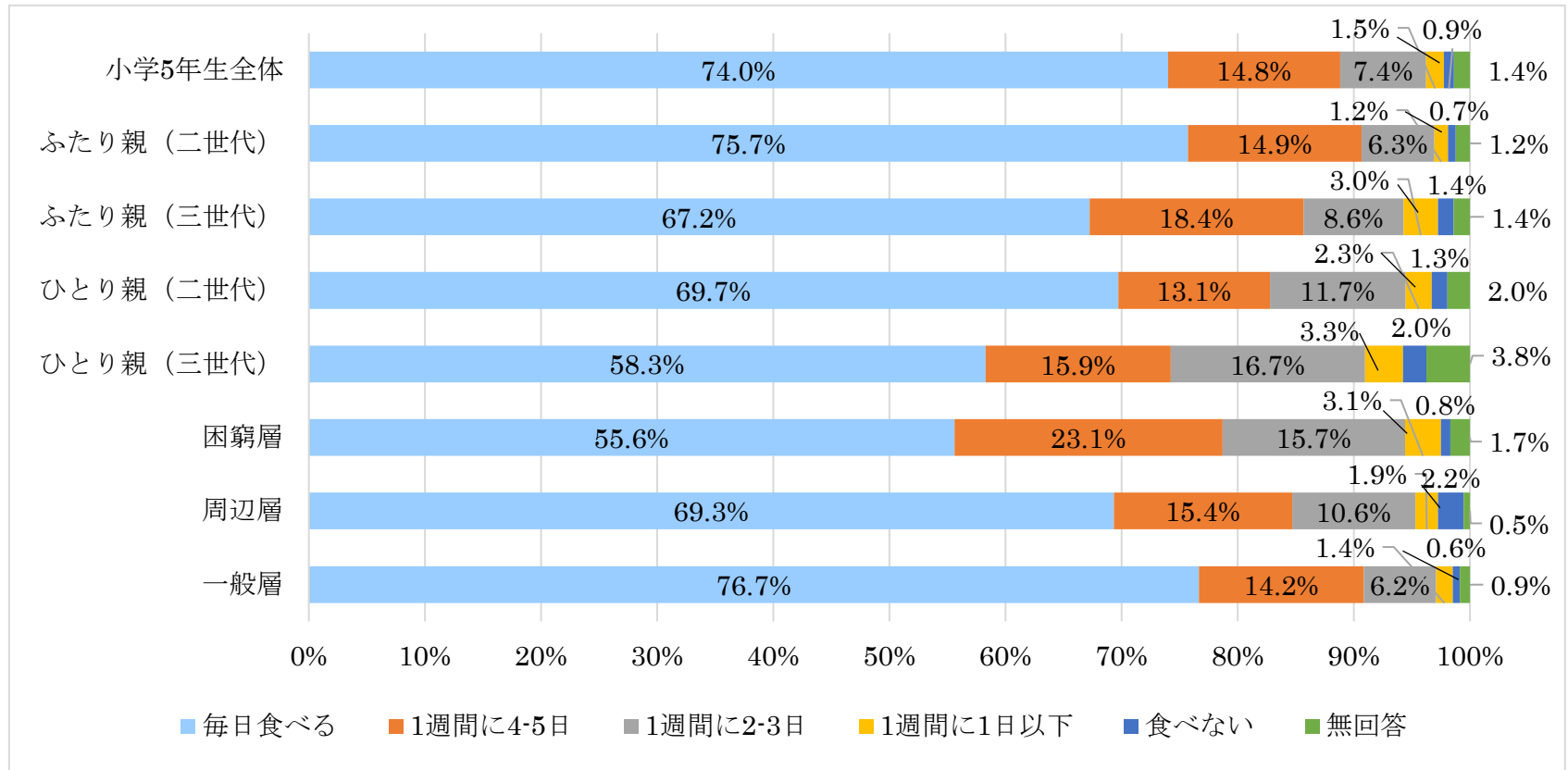
授業の理解度（小学5年生）（東京調査）



- 困窮層では、3割近くの小学5年生が「授業がわからない」。

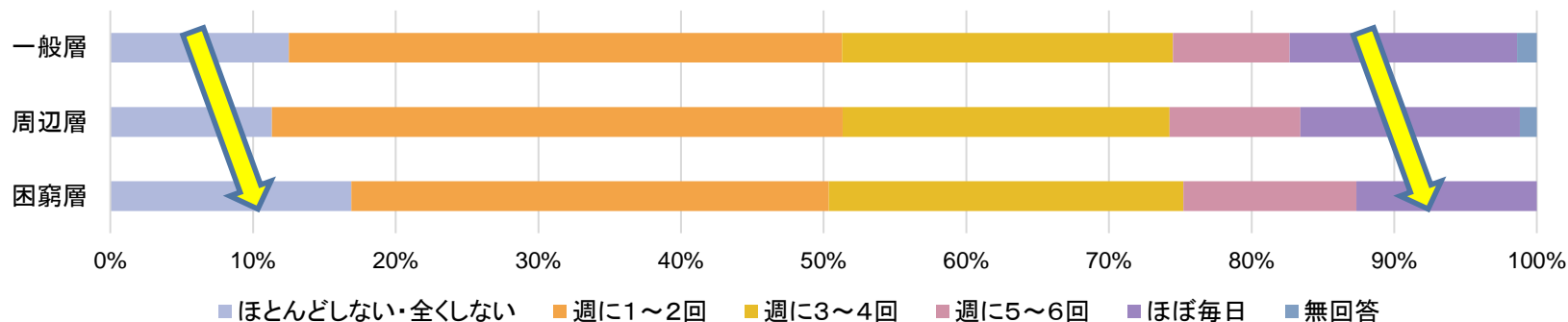
食料の困窮

「野菜の摂取の頻度（小学5年生）」

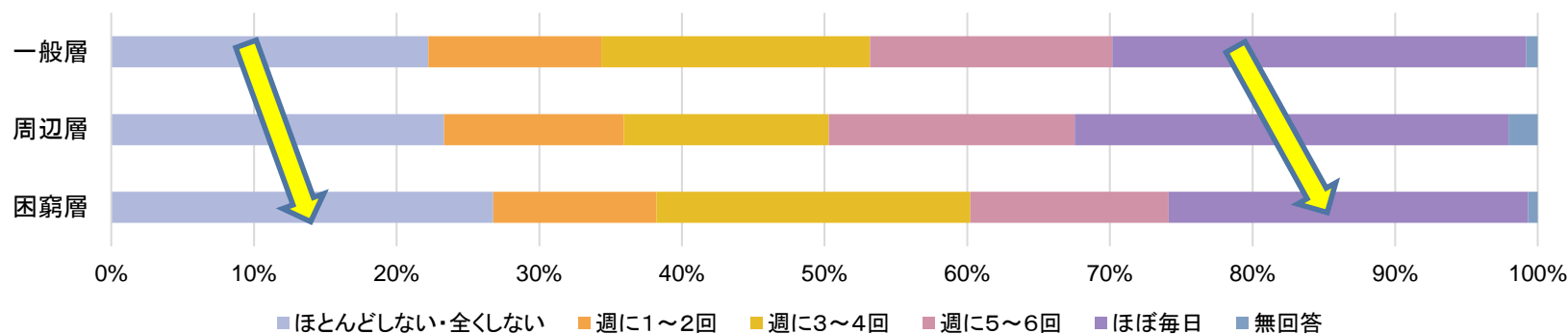


運動

30分以上からだを動かす遊びや習い事をする頻度(小学5年生)



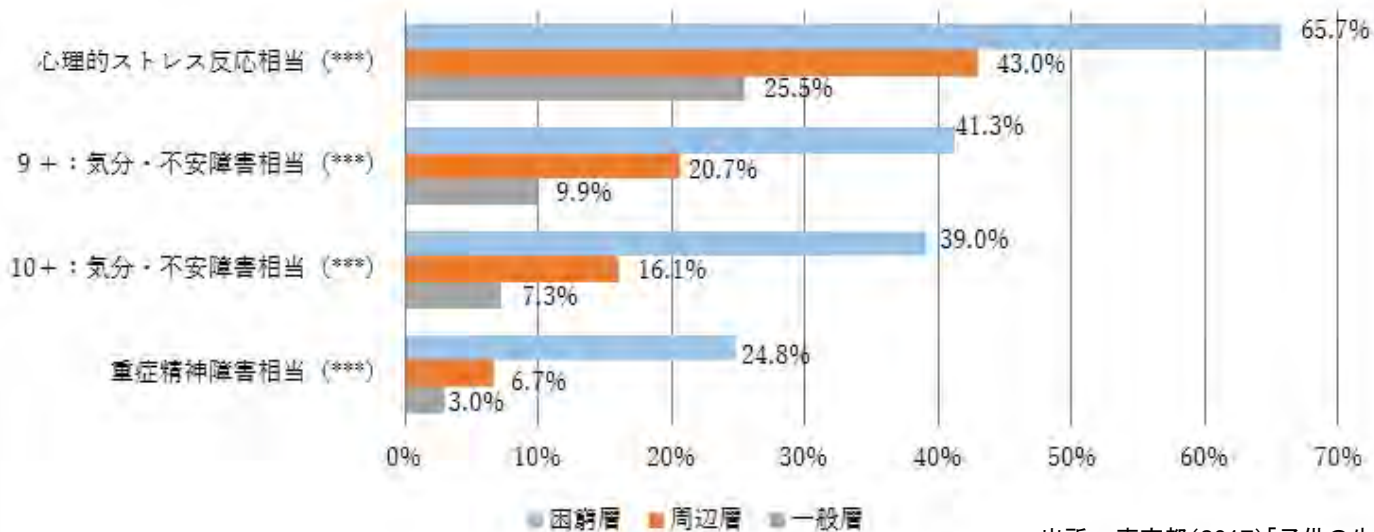
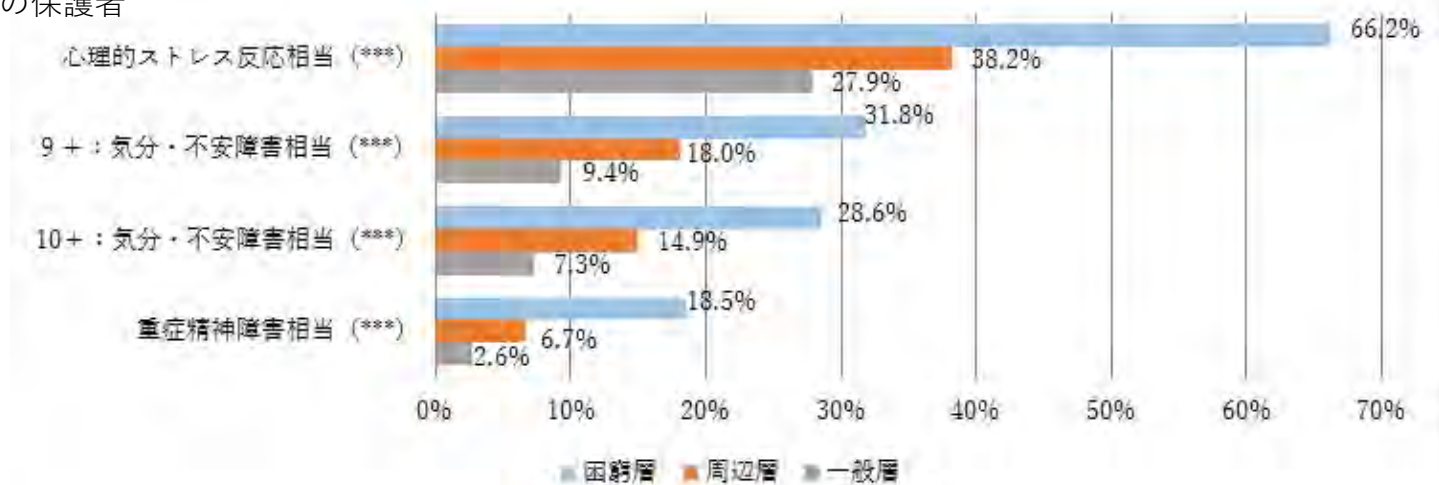
30分以上からだを動かす遊びや活動をする頻度(中学2年生)



- 困窮層は一般層に比べ、「ほとんどしない・全くしない」が多く、「ほぼ毎日」が少ない傾向がある。

親の抑うつ傾向

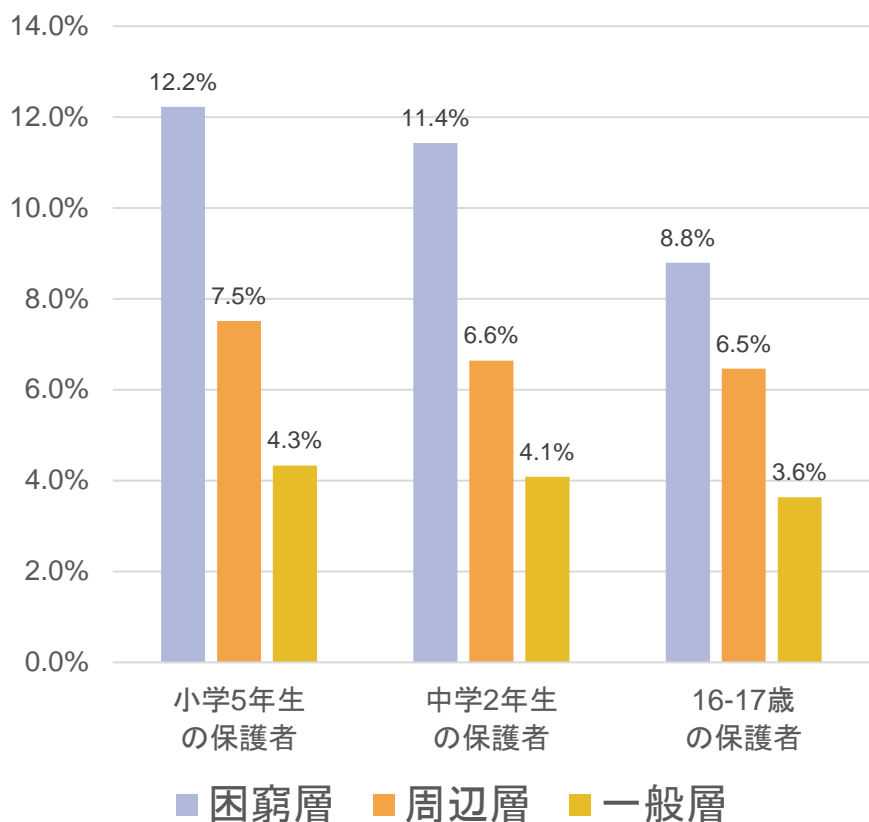
小学5年生の子どもの保護者



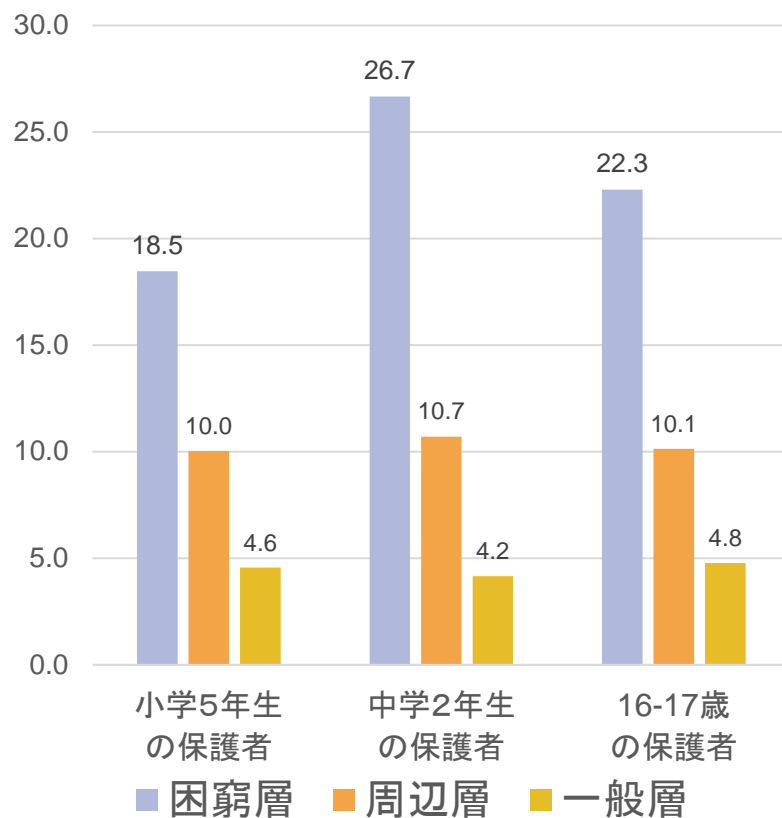
出所：東京都(2017)「子供の生活実態調査(小中高校生)報告書」

親自身の暴力被害の経験

保護者が成人となるまでに「親から暴力」を経験した%



「(元)配偶者(パートナー)から暴力を受けた」と回答した母親の割合





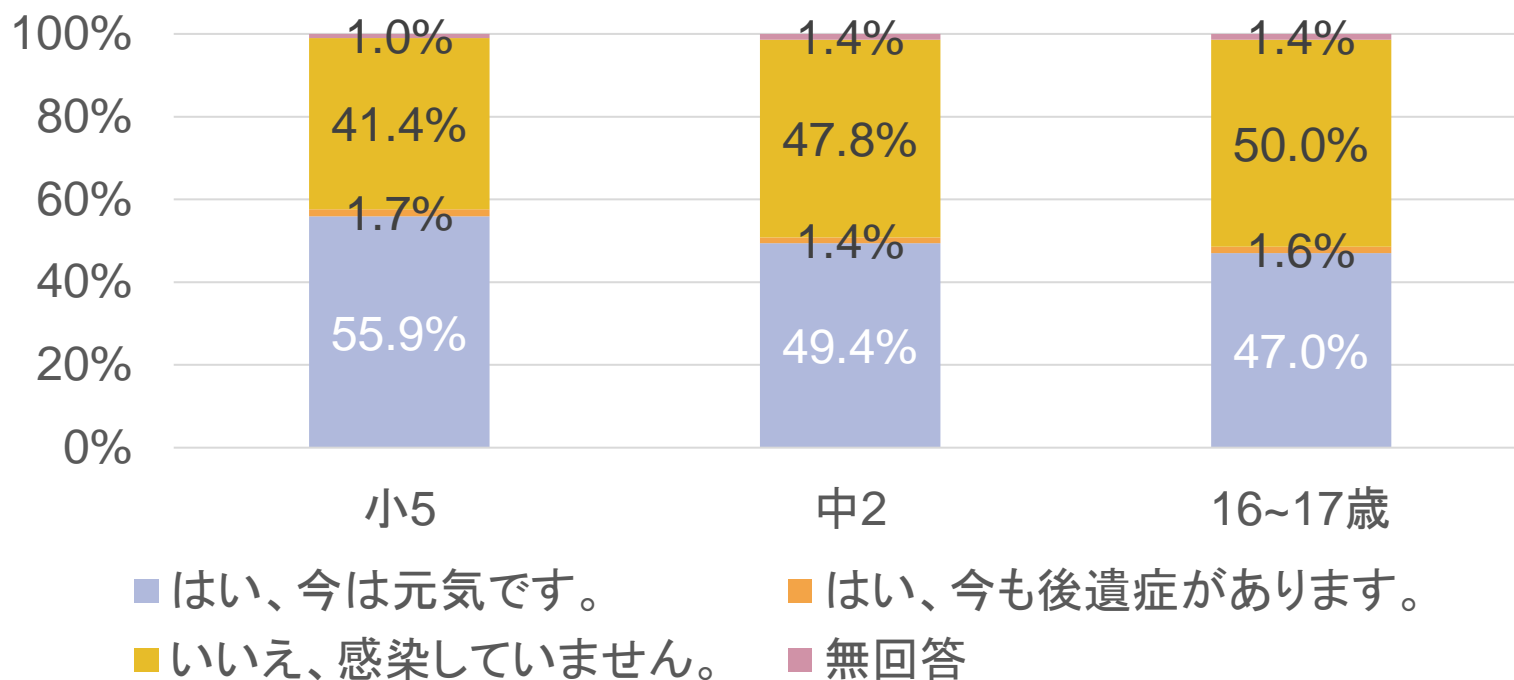
コロナ禍の子どもへの影響



コロナ罹患歴

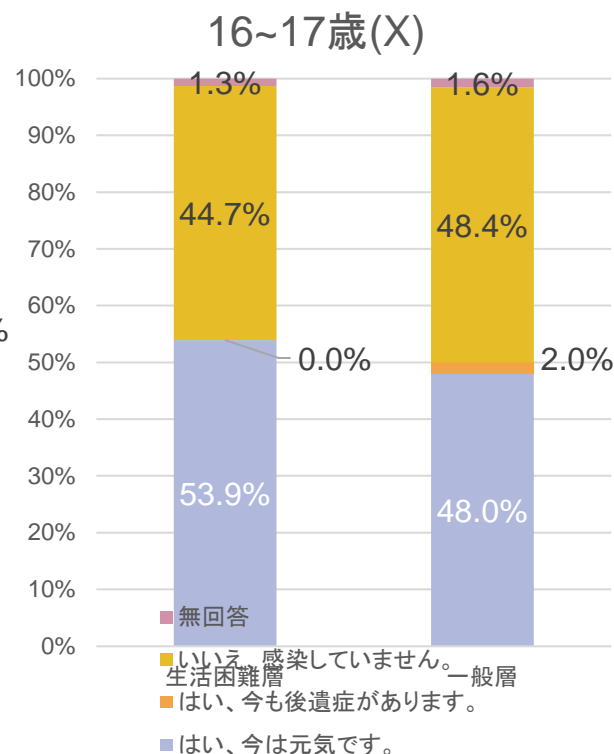
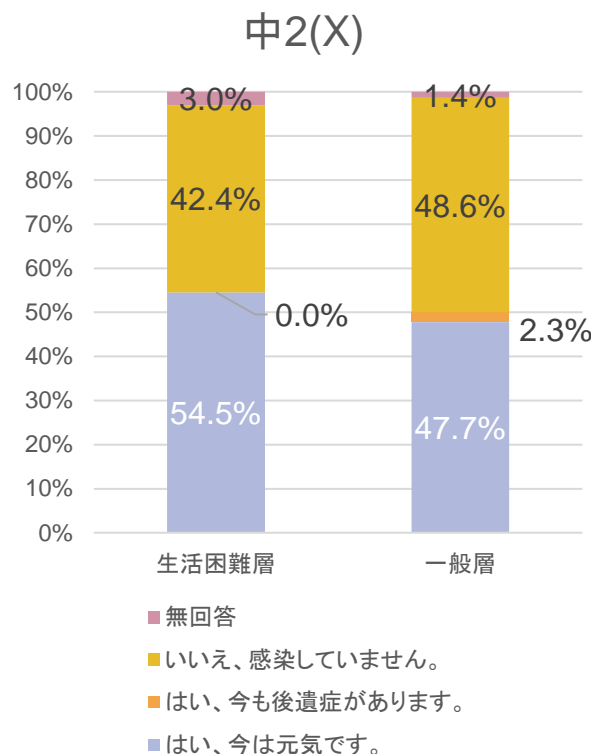
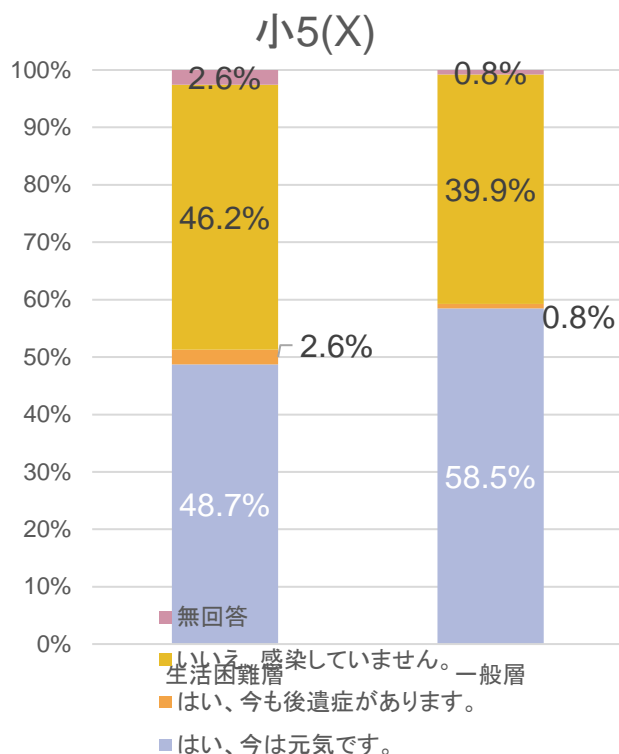
2022年度東京子どもの
生活実態調査(実施
2023年1月)墨田区集計

単純集計



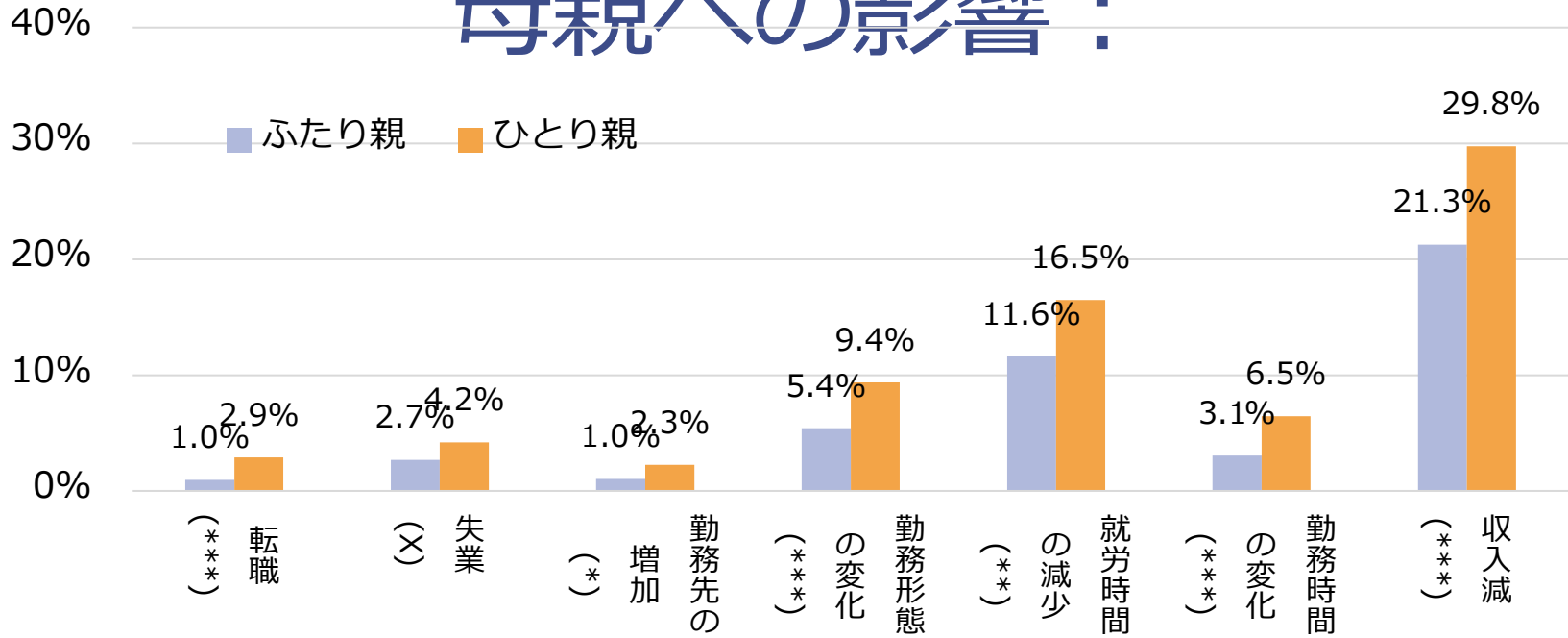
コロナ罹患歴×生活困難度

2022年度東京子どもの生活実態調査(実施2023年1月)墨田区集計

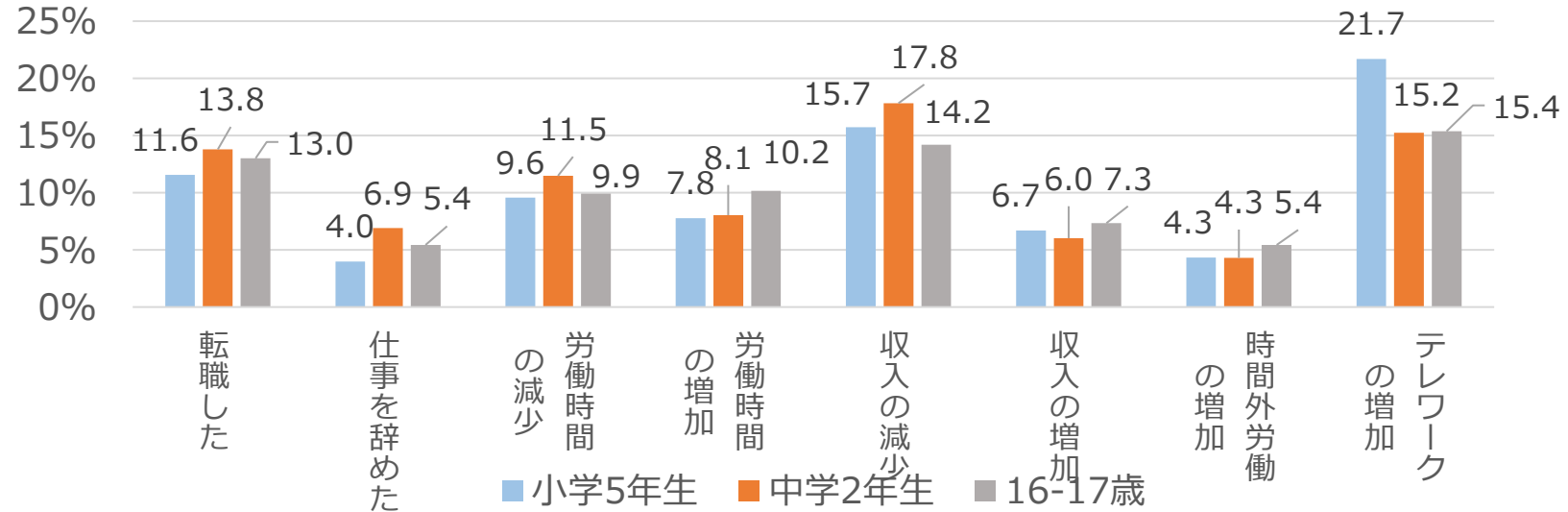


母親への影響：

大田区
2020
10月

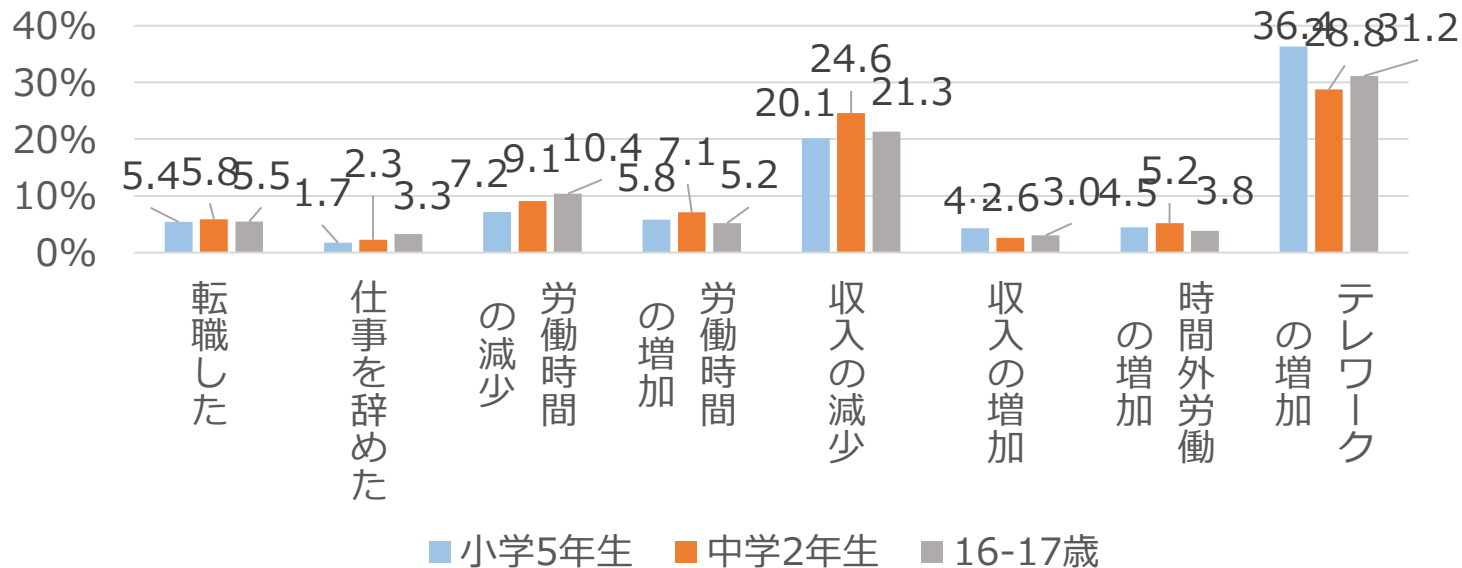


墨田区
2023



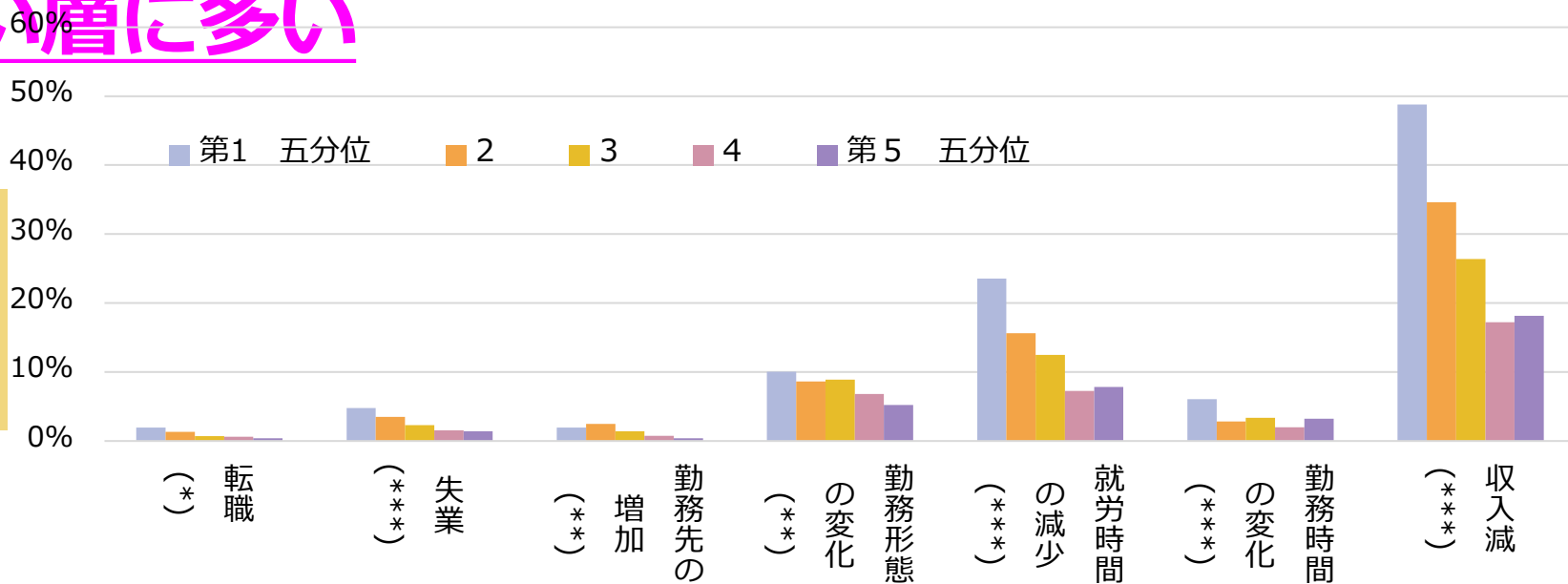
父親への影響：年齢層別

2022年度東京子どもの生活実態調査(実施2023年1月)墨田区集計

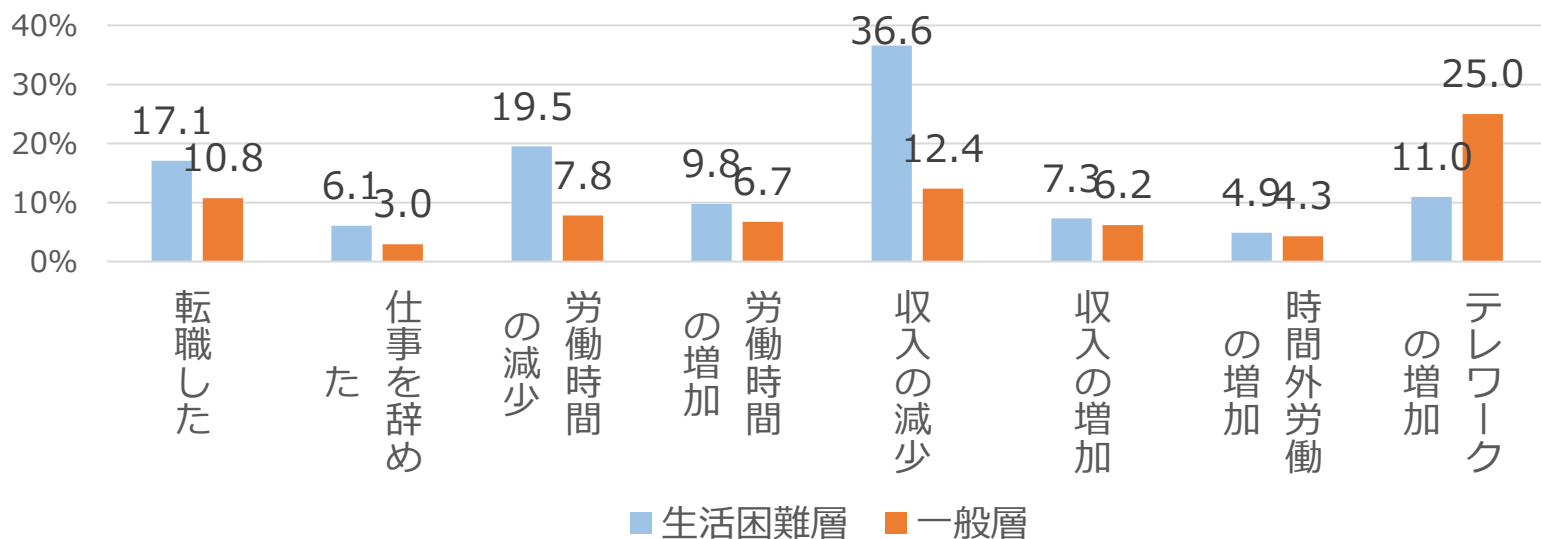


親の就労への影響は、経済状況がそもそも厳しい層に多い

大田区
2020
10月
小5

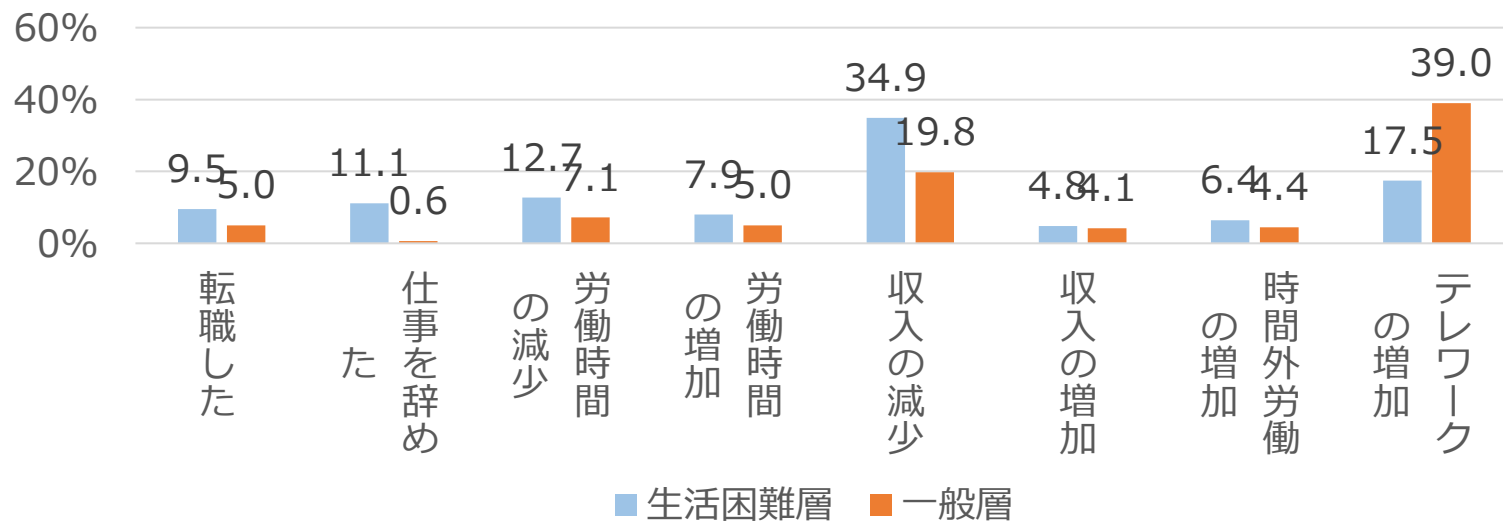


墨田区
2023
小学5
年生



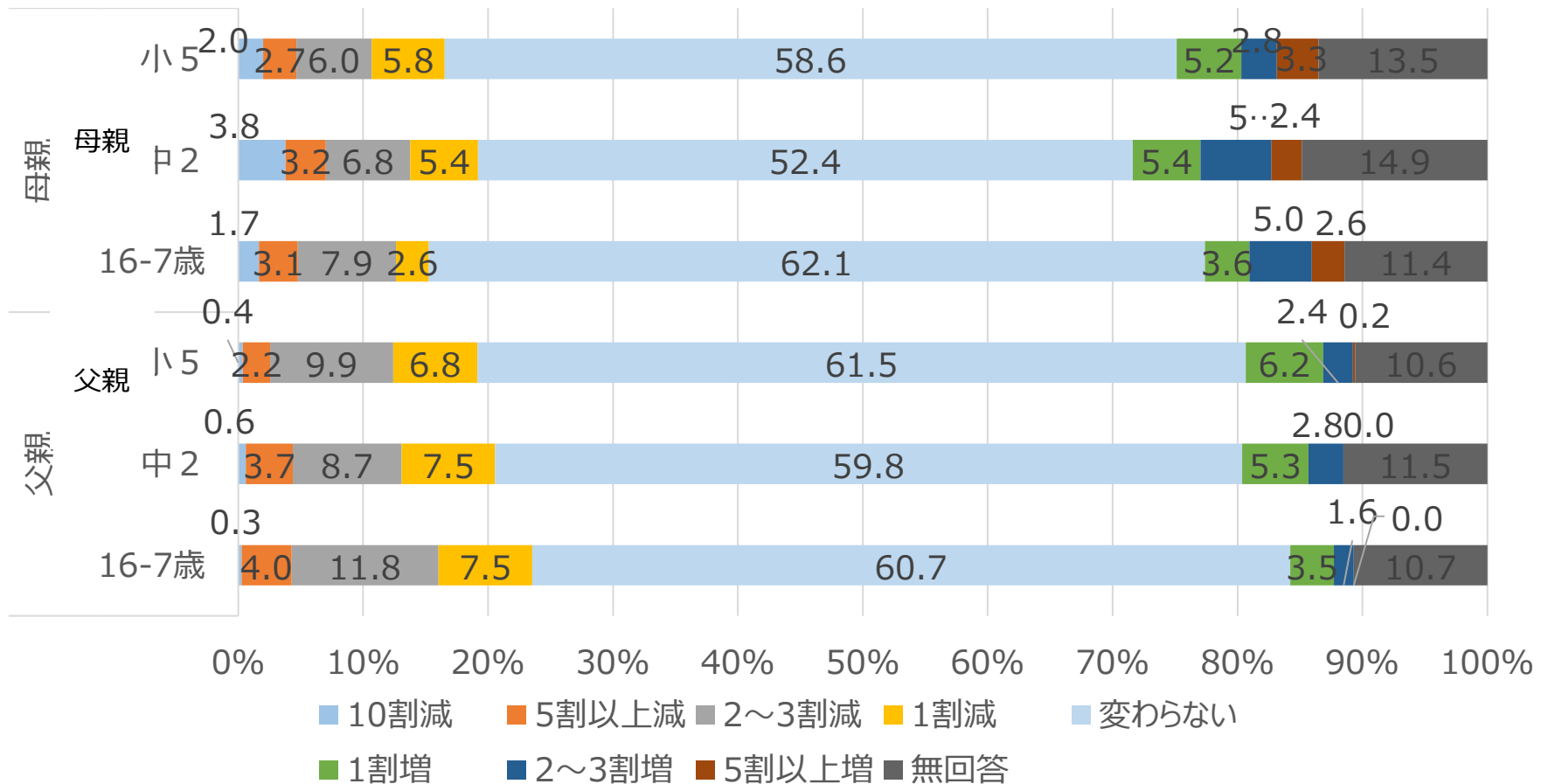
父親の就労への影響： 生活困難度別（小学5年生）

2022年度東京子どもの
生活実態調査（実施
2023年1月）墨田区集計



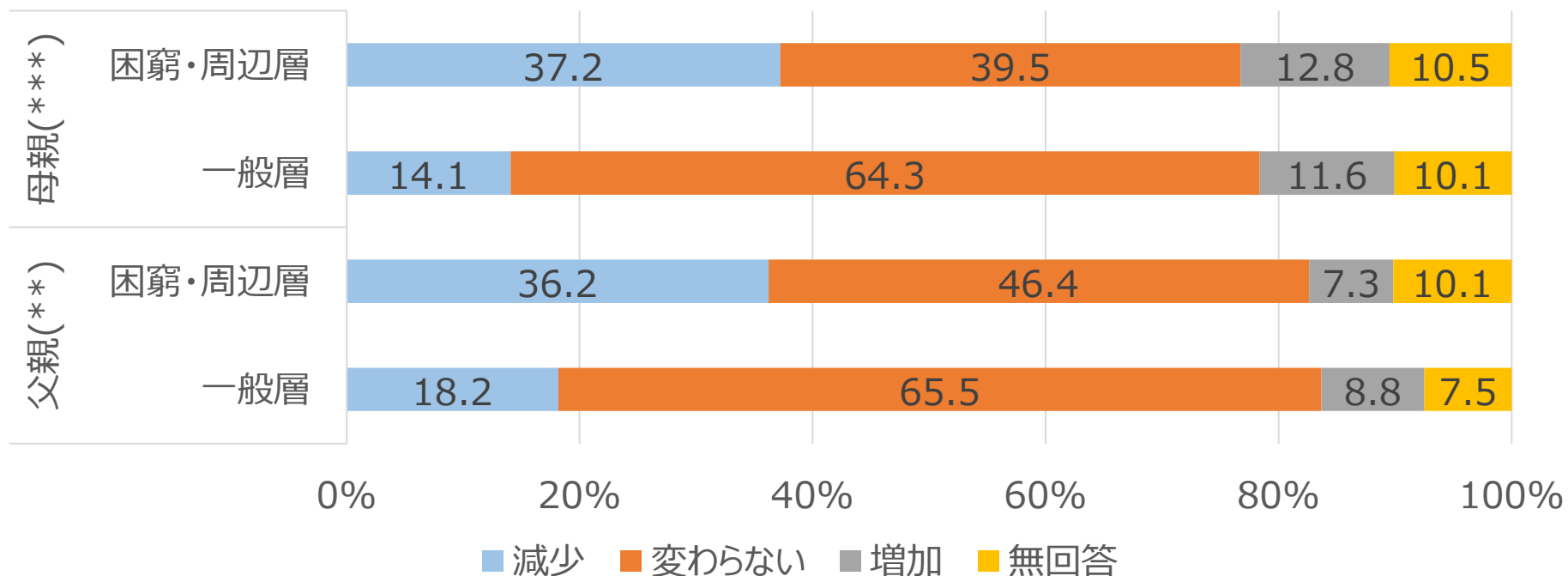
収入の減少： 母親・父親の収入減 (コロナ前と比較)

2022年度東京子どもの
生活実態調査(実施
2023年1月)墨田区集計



コロナ禍による収入への影響：生活困難度別

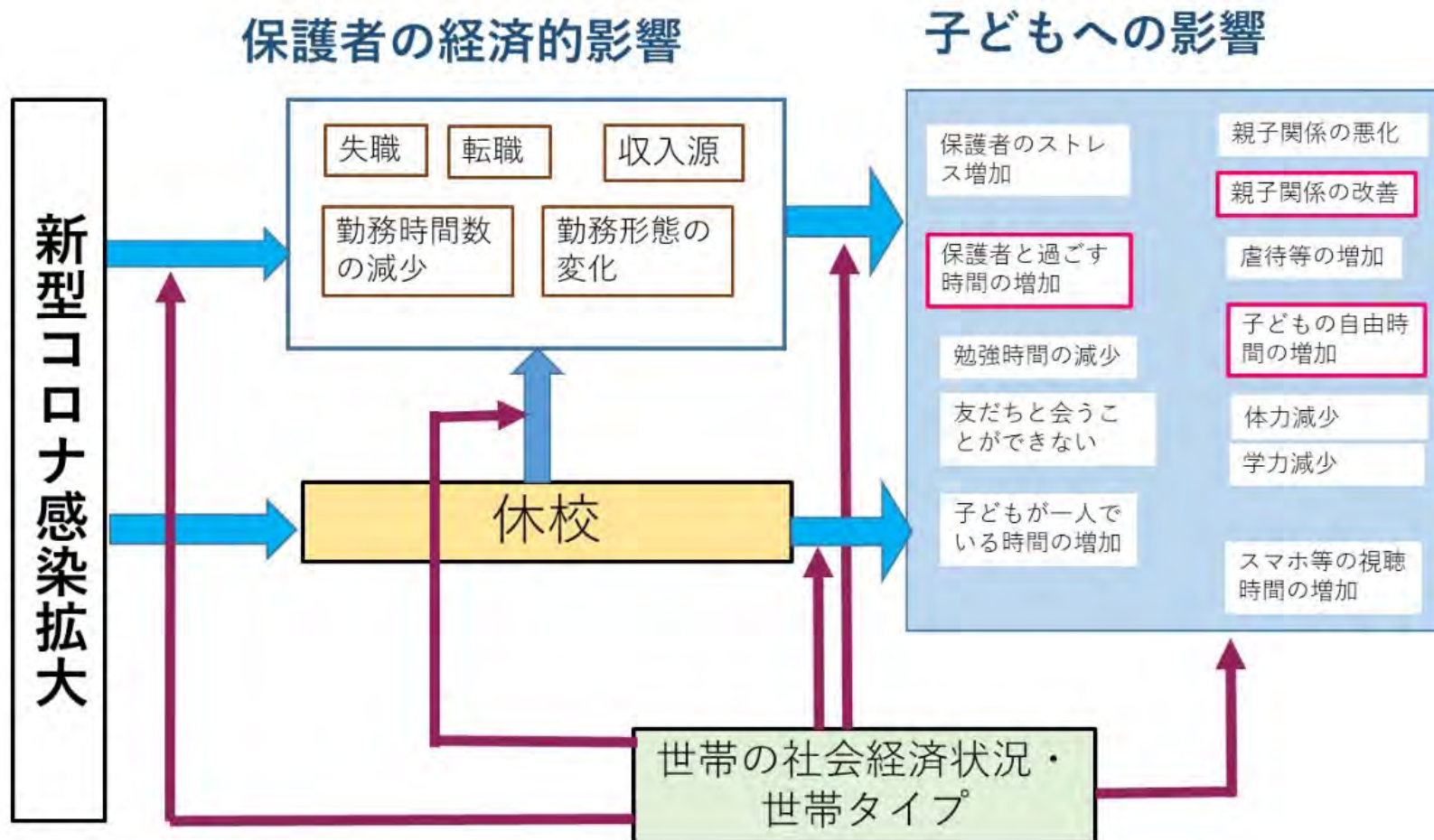
2022年度東京子どもの生活実態調査(実施2023年1月)墨田区集計



- 同様の状況は、中学2年生、16-17歳でも。

こどもへの影響

コロナ禍が子どもに及ぼす影響



コロナ禍で5歳児に約4か月の発達の遅れ —3歳、5歳ともに発達の個人差拡大

新型コロナウイルスの流行と乳幼児の発達の関連：2017-21年の追跡調査

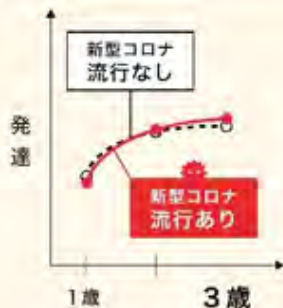
対象

首都圏のある自治体の全保育園に通う
1歳および3歳の乳幼児 887名

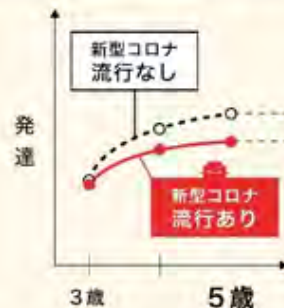
比較

対象を2年間追跡調査。
追跡調査中にコロナ禍を経験した群とそうでない群の間で、
3歳または5歳時の発達を比較。

新型コロナウイルスの流行と乳幼児の発達の関連



3歳時点での発達の遅れ
明確にはみられず



5歳時点での発達の遅れ
平均 **4.39**ヶ月

コロナ禍での発達の個人差

3歳、5歳ともに
発達の **個人差拡大**

保育園の保育の質と発達の関連

質の高いケアを提供する保育園に通っていた子は、
コロナ禍においても3歳時点での発達が良い傾向。

質の高い保育環境が子どもの発達を守る可能性

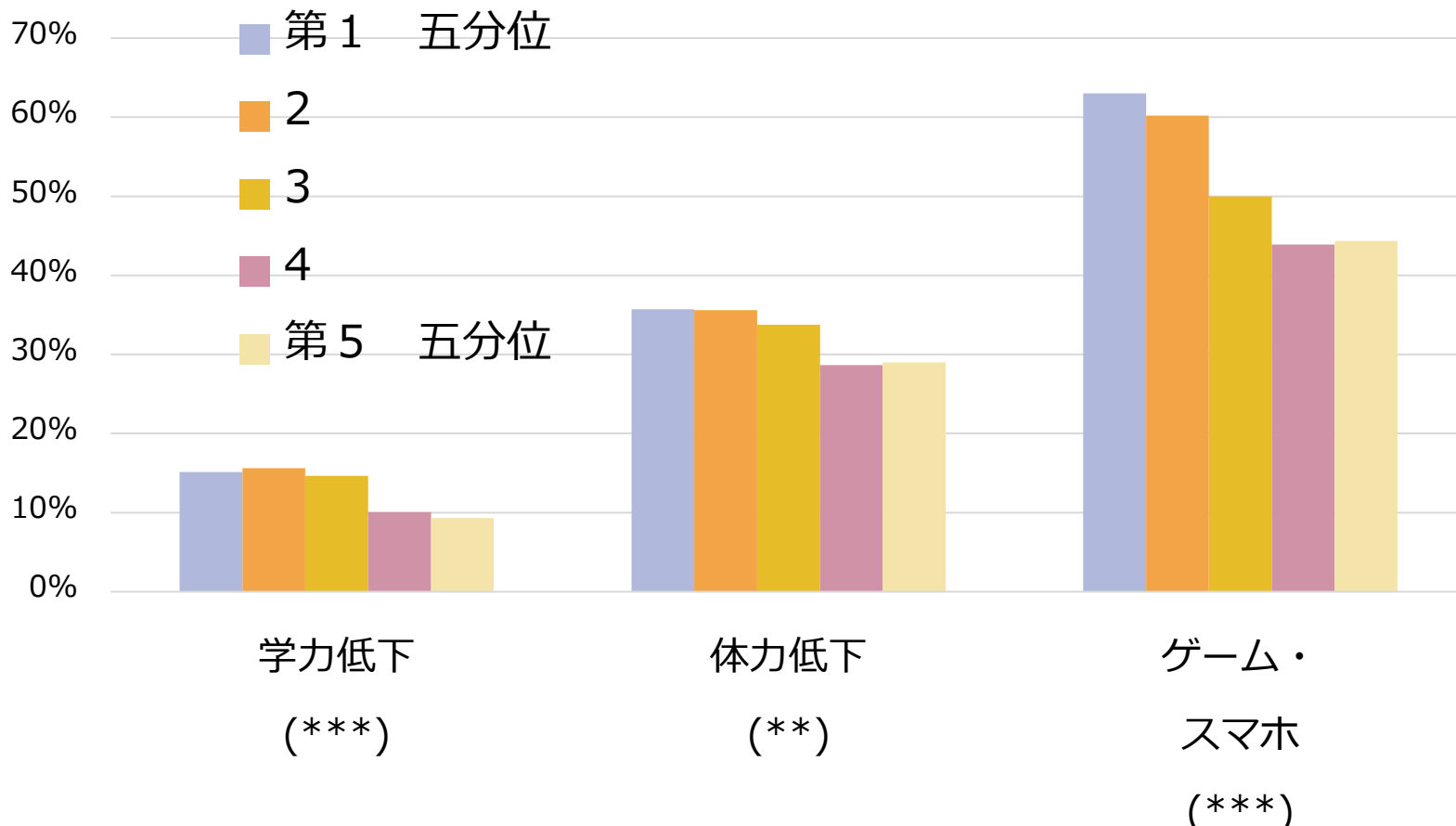
保護者の精神状態と発達の関連

保護者が精神的な不調を抱える家庭の子は、
コロナ禍で5歳時点での発達の遅れが顕著。

安心して子育てできる家庭支援が子どもの発達を守る可能性

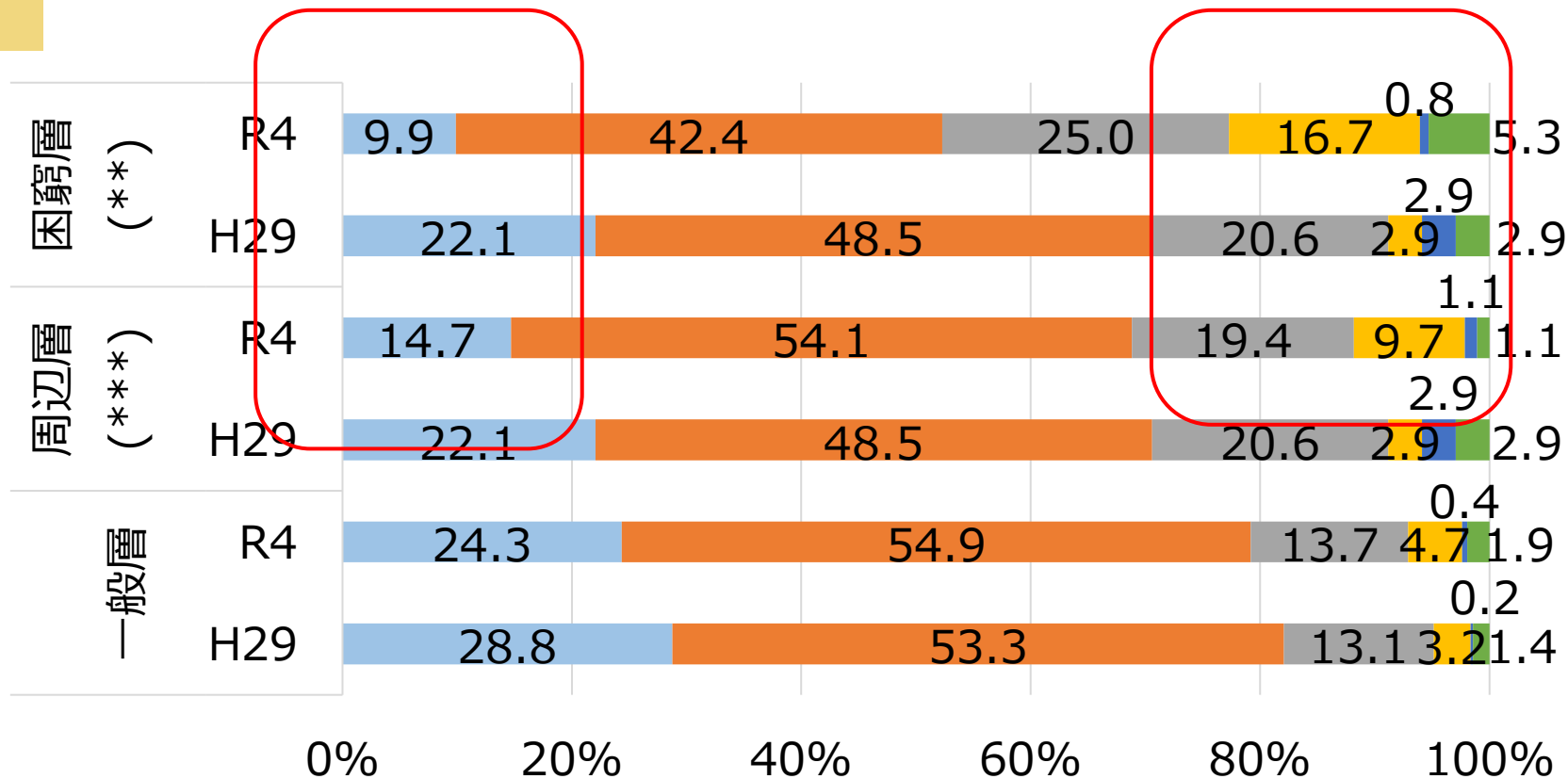
大田区
調査
2020年
10月
小学5
年生

休校による子どもへの影響 (ふたり親世帯) : 前年の所得5分位別



- 学力低下、体力低下、ゲーム・スマホの時間が増えた、と感じる親は所得階層が底辺の方が多い

X市におけるH29調査とR4年調査の比較 困窮層・周辺層における主観的学力の低下

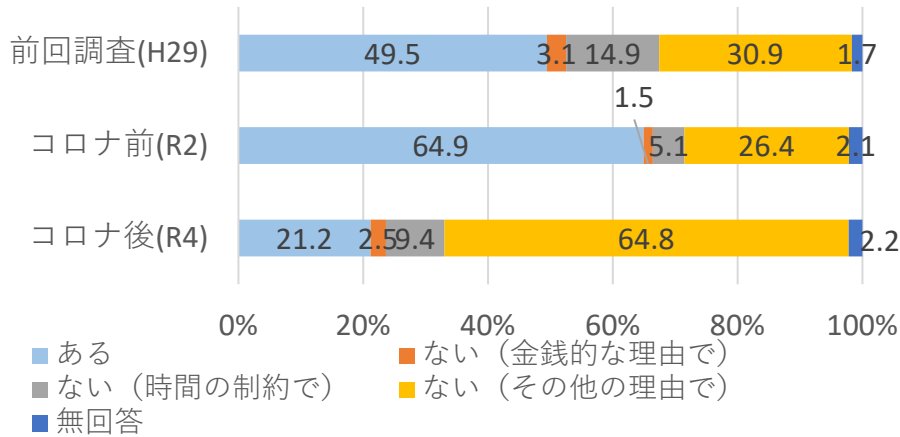


■ いつもわかる
 ■ だいたいわかる
 ■ 半分くらいわかる
■ わからないことが多い
 ■ まったくわからない
 ■ 無回答

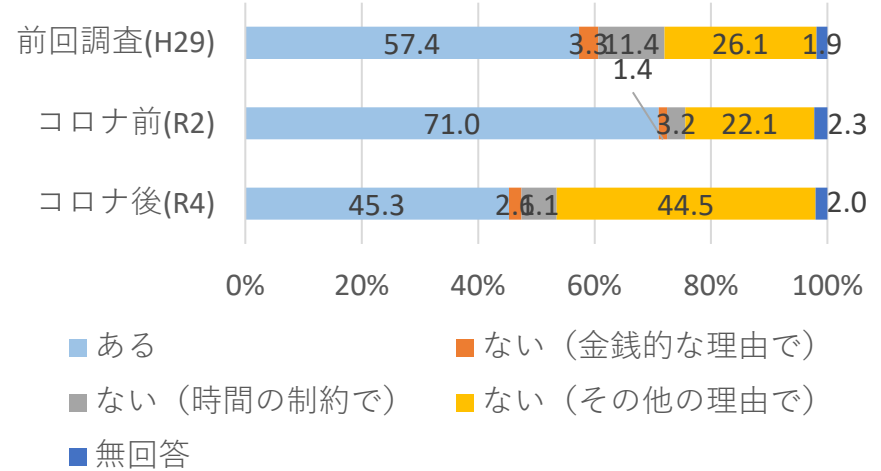
特に、困窮層、周辺層では「わからないことが多い」が増えている。

X市 (H29⇒R2⇒R4) : 体験の大幅減少

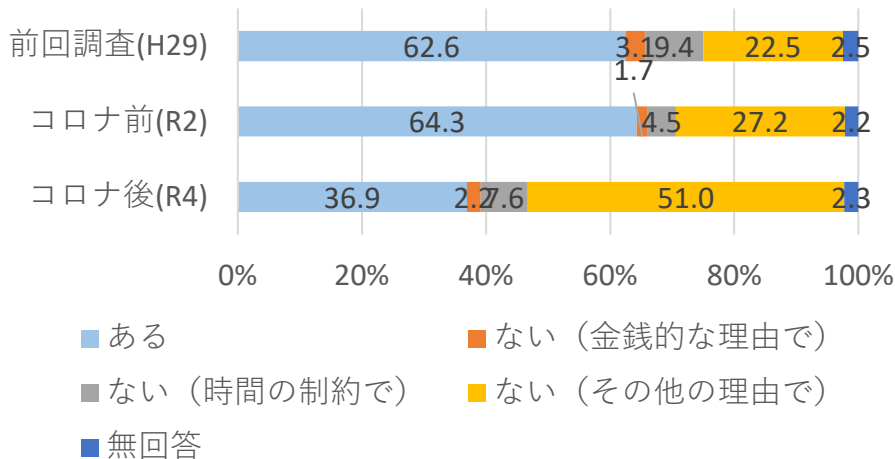
海水浴 (小学5年生)



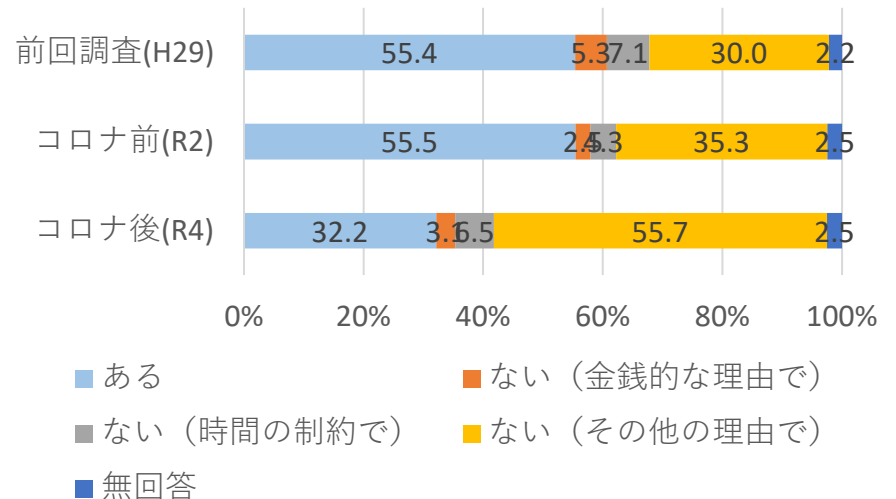
キャンプやバーベキュー (小学5年生)



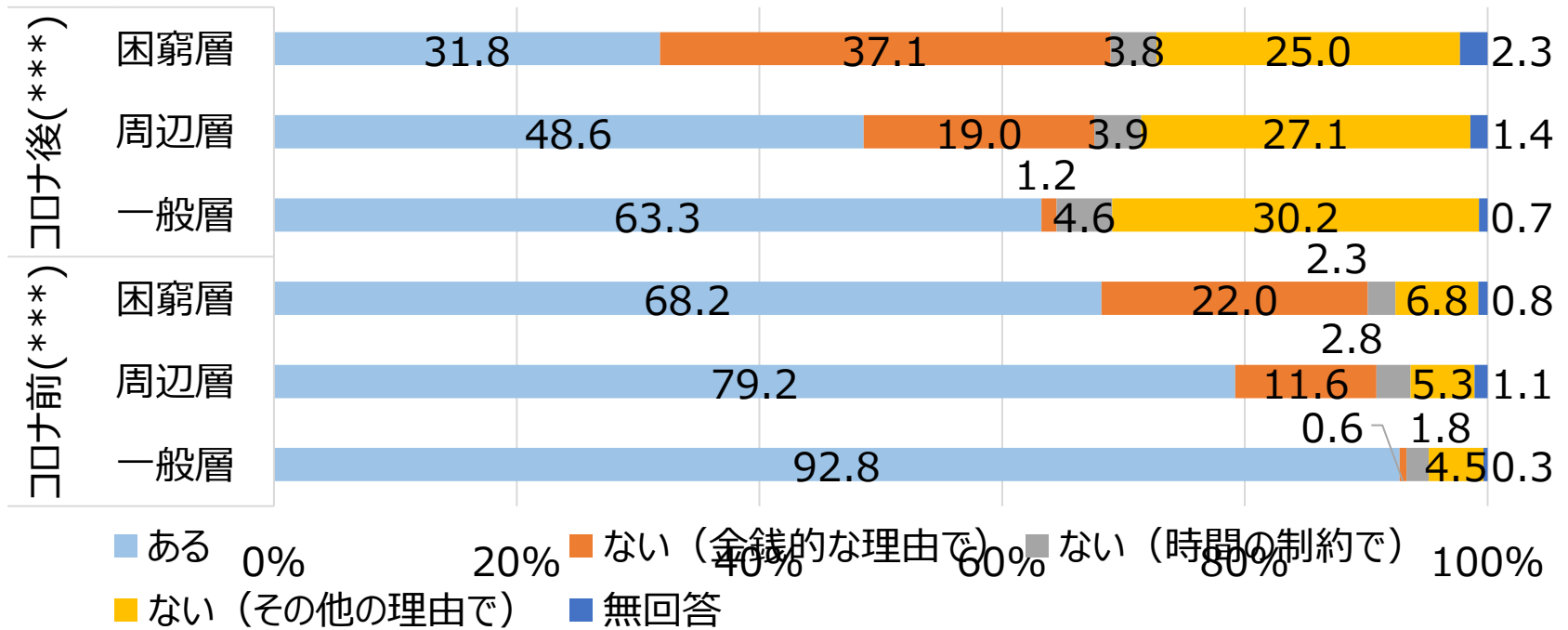
博物館・美術館など (小学5年生)



スポーツ観戦や音楽会など (小学5年生)



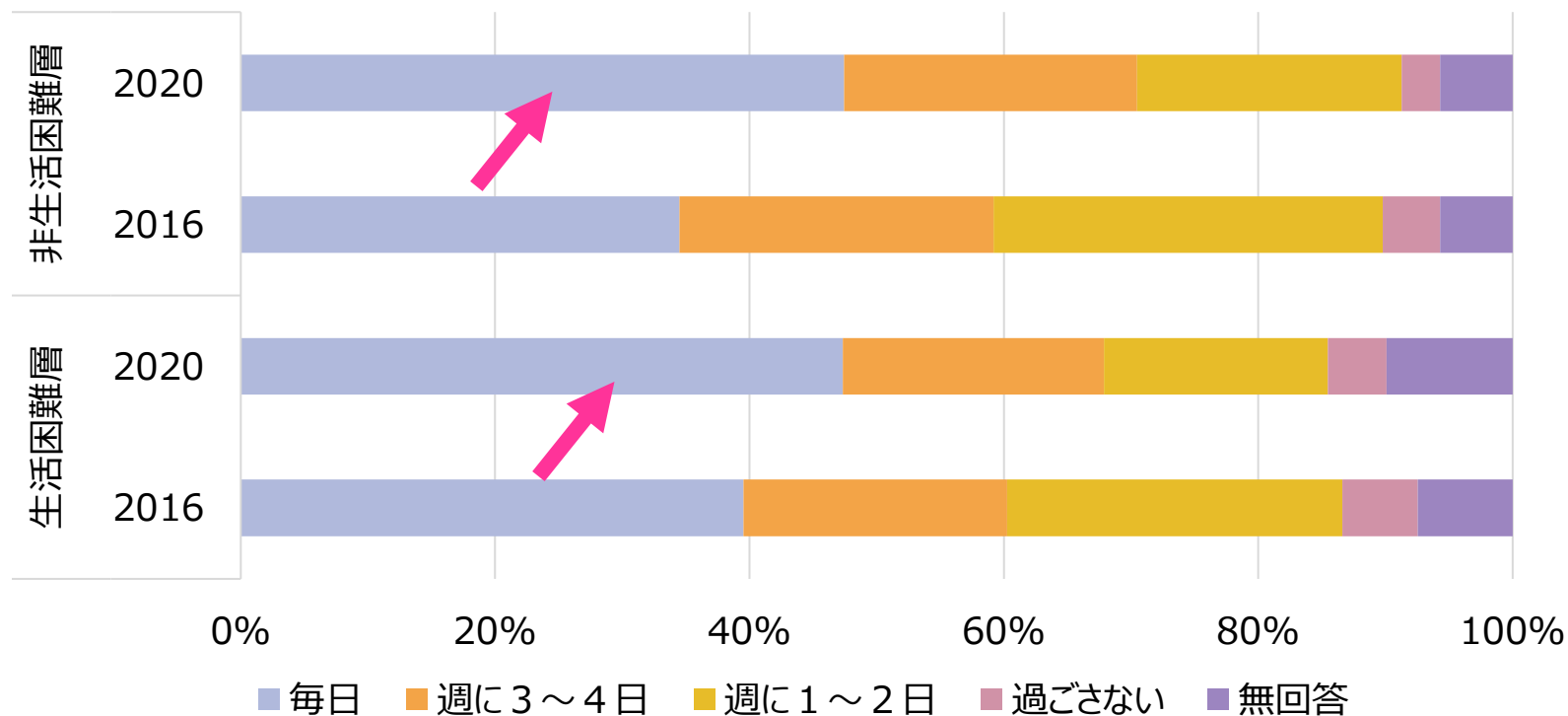
X市 (R2⇒R4) 体験格差の拡大：遊園地やテーマパーク (小学5年生)



コロナ禍にて体験が経験できなかった子どもは困窮層や周辺層の方が一般層よりも多い。これらの層については、「その他の理由」と共に「金銭的な理由」も体験ができない理由として多くなっている。

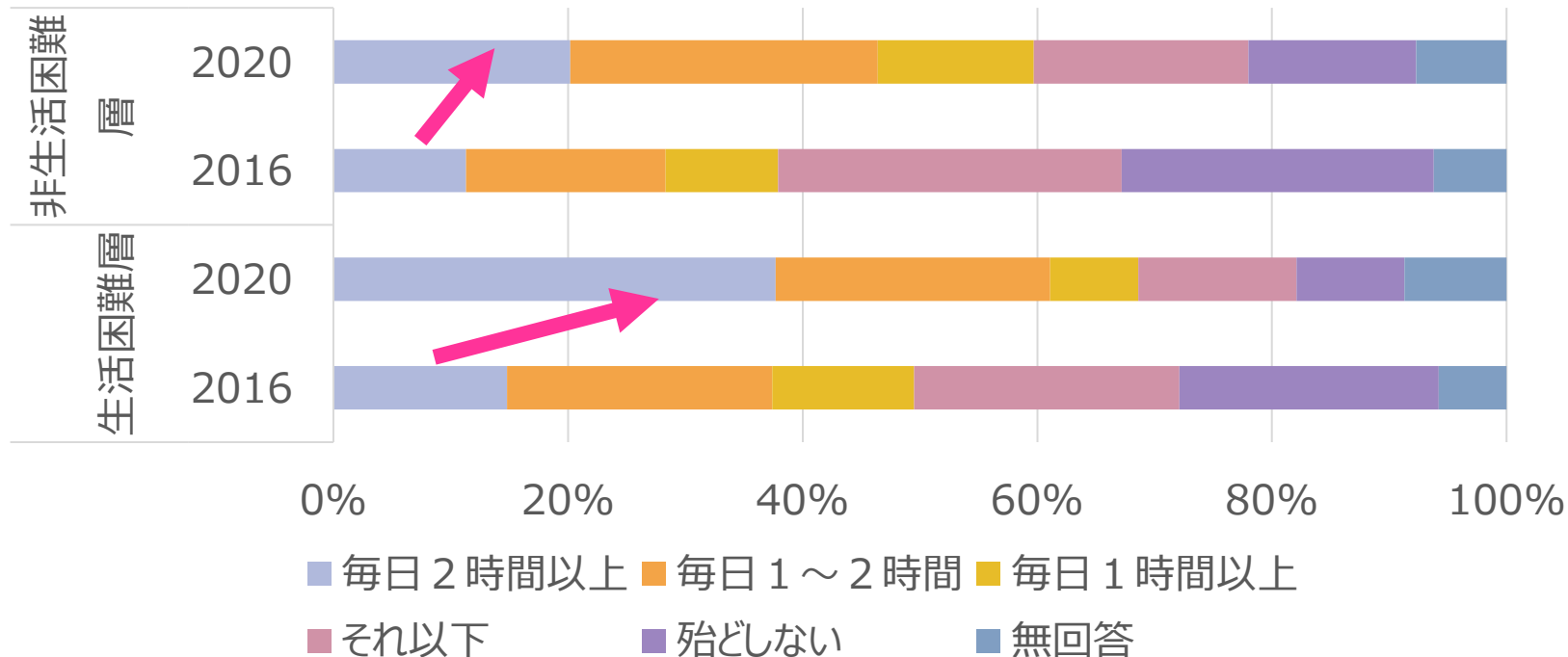
Y区 (2016⇒2020): 「家ごもり」の状況

平日の放課後（午後6時くらいまで） 過ごす場所

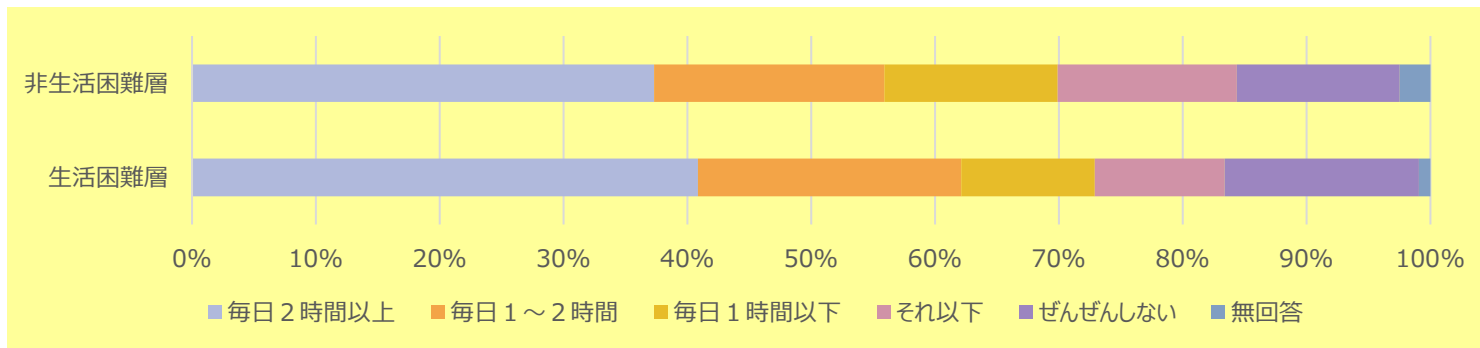


Y区：ゲーム時間の増加

ゲームで遊ぶ（パソコン・スマホ・タブレットを用いたゲーム含む）

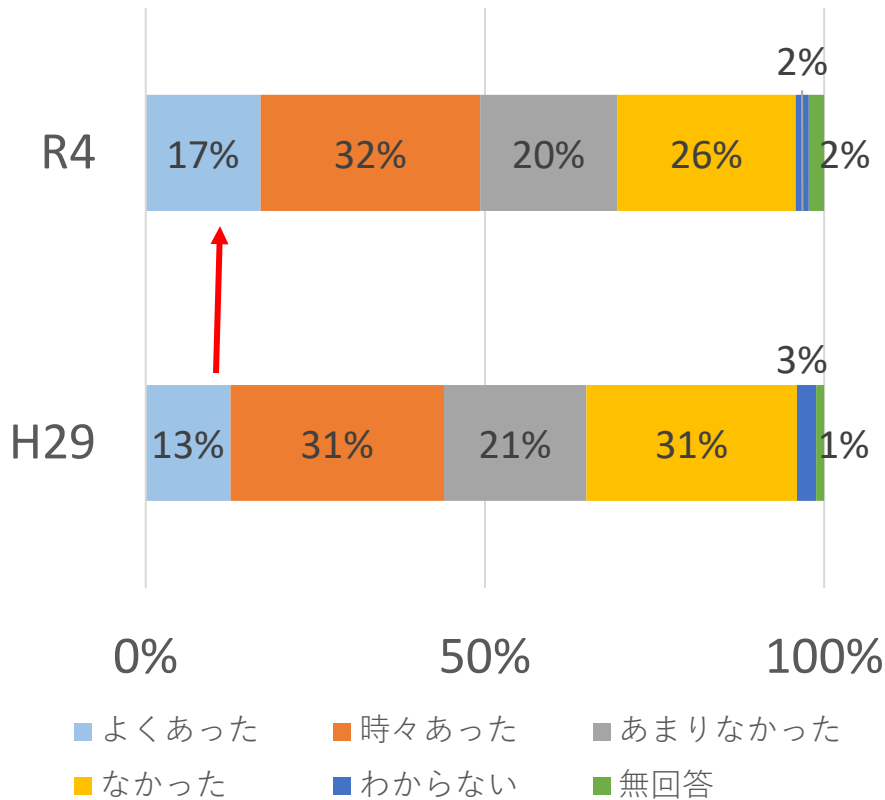


参考
東京
調査
2022

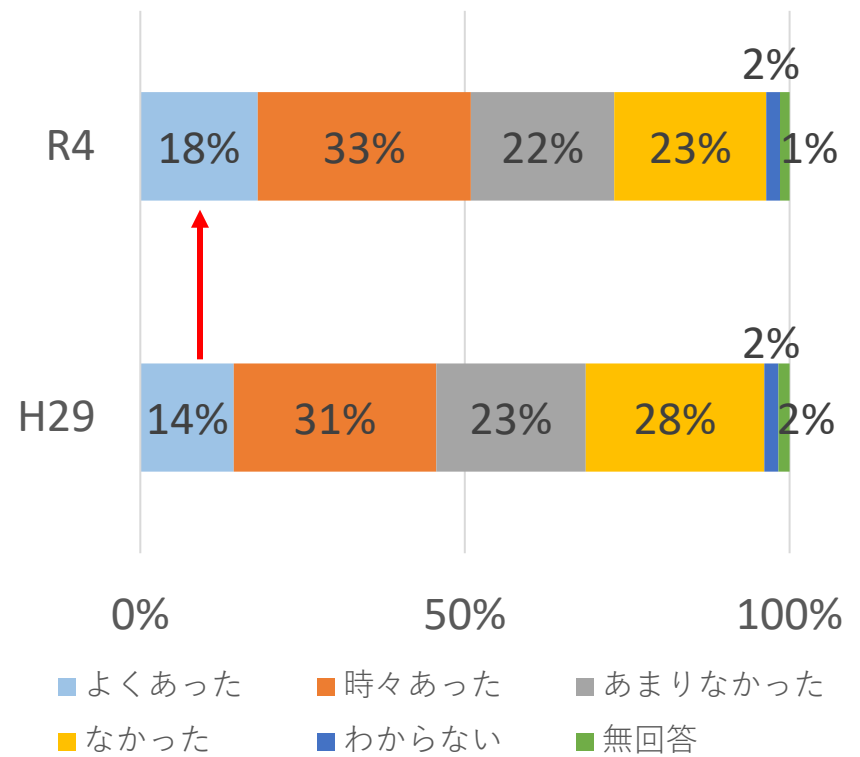


X市 (H29⇒R4) : 不登校傾向の増加

学校に行きたくないと思った
(小学5年生)



学校に行きたくないと思った
(中学2年生)



コロナ禍が過去のものとなる中で・・・

1. 貧困（生活困難）層の子どもの状況が、非貧困（非生活困難）層の子どもに比べ、さまざまな指標において厳しい状況に置かれていることは変わっていない。
2020年、2021年までは、政府によるさまざまな支援策もあったが、それらも終了。むしろ、貸付制度などの返済が重くのしかかってくる可能性。
2. 貧困層の割合が減少する中で、貧困層に残された子どもの状況の悪化。⇒こども間の「格差」の拡大の可能性
学力格差、体験格差の拡大の懸念。
3. こどもの生活様式の根本的な変化の定着
すべての子どもに対して（IT時代にも通用する）健康的な活動の提供が必要。
4. コロナ禍の長期的影響の懸念
影響を一過性のものとするための政策とモニタリングの必要性。



ご清聴ありがとうございました

